

DEXIBELL

VIVO | SX7 |

digital piano module

Owner's Manual





For European Countries

This product complies with the requirements of EMC Directive 2004/108/EC.

Regulatory and Safety Information

Users in U.S.A

This product has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital devices, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- 1) This device may not cause harmful interference.
- 2) This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

FCC CAUTION: Any unauthorized changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Note: The manufacturer is not responsible for any radio or tv interference caused by unauthorized modifications to this equipment. Such modifications could void the user's authority to operate the equipment.

For Canada

NOTICE

This Class B digital apparatus meets all requirements of the Canadian Interference-Causing Equipment Regulations.

AVIS

Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

IMPORTANT NOTICE FOR THE UNITED KINGDOM

IMPORTANT: THE WIRES IN THIS MAINS LEAD ARE COLOURED IN ACCORDANCE WITH THE FOLLOWING CODE.

BLUE: NEUTRAL
BROWN: LIVE

As the colours of the wires in the mains lead of this apparatus may not correspond with the coloured markings identifying the terminals in your plug, proceed as follows:

The wire which is coloured BLUE must be connected to the terminal which is marked with the letter N or coloured BLACK.
The wire which is coloured BROWN must be connected to the terminal which is marked with the letter L or coloured RED.
Under no circumstances must either of the above wires be connected to the earth terminal of a three pin plug.

For European Countries



This Symbol indicates that in EU countries, this product must be collected separately from household waste, as defined in each region. Products bearing this Symbol must not be discarded together with household waste.

VIVO | SX7 |

digital piano module

Owner's Manual

VIVO SX7サウンドモジュールをお買い求めいただきありがとうございます。

VIVO SX7は、Dexibell独自の24bit/48kHzのT2Lサンプリング&モデリング・テクノロジーにより、アコースティック・ピアノの特徴を忠実に再現。最大限のリアリティと圧倒的な表現力を実現しています。

さらに、アコースティック・ピアノやエレクトリック・ピアノだけでなく、オルガンや、ブラス、シンセサイザーなど、Dexibellの最高音質のサウンドも惜しみなく搭載。1.5GBの大容量WAVEメモリーに、オンラインで入手したDexibellのサウンド・ライブラリー（PLATINUM Library）やサードパーティ製のSF2サウンドを追加することも可能です。

VIVO SX7の豊富な機能を最大限に活用するために、このオーナーズマニュアルをお手元に置いて、すべての項目をよくお読みください。

Dexibellの延長保証（3年）を受けるためには、製品登録が必要です。



- www.dexibell.comにアクセスして、製品登録を行ってください。
- 製品登録されると、通常の製品保証期間（2年）が更に3年延長されます。
- 登録には、ご購入時のレシートや納品書をアップロードする必要がありますので、予め画像データ化しておいてください。

1 安全にお使いいただくために

ご使用になる前によくお読みください

感電、火災、その他の危険による死亡または重症を負う可能性を回避するために、以下の指示を必ず守ってください。



警告

温度が極端に高い場所・地域で使用しない

製品本体と付属のACアダプターは、温度が極端に高い場所・地域で使用しないでください。動作温度範囲は、5~40℃です。



個人で修理や部品交換をしない

製品の修理や部品の変更・交換を行わないでください。そのような際は、必ずお買い上げ店またはDirigentカスタマーサポートにご相談ください。



製品や付属品の分解・改造をしない

製品や付属品を開けたり、内部コンポーネントを分解したり改造したりしないでください。



付属のACアダプターを使用する (DEXIBELL DYS624-120200W)

必ず付属のACアダプターを使用してください。異なるアダプターを接続すると、内部回路に重大な損傷を与えたり、感電の危険があります。



付属の電源コードを使用する

必ず製品付属の電源コードを使用してください。



電源コードを傷つけない

電源コードを過度にねじったり曲げたり、傷つけたりしないでください。火災や感電の原因になります。



不安定な場所に設置しない

ぐらついたり傾いた場所に設置せず、必ず安定した水平な場所に設置してください。



液体や異物を入れない、液体の入った容器を置かない

液体（水やジュースなど）の入った容器や異物（可燃性のもの、硬貨や針金など）を、本体に入れないでください。誤動作やショートなど、故障の原因となります。



次のような場所で使用や保管をしない

- ・ 極端に暑い場所（直射日光、暖房器具の近く、日中の車内など）、寒い場所
- ・ 蒸気や煙が直接当たる場所
- ・ 湿度の高い場所（洗面所や浴室、濡れた床など）
- ・ 塩害の恐れがある場所
- ・ 雨に濡れる場所
- ・ ほこりや砂ぼこりの多い場所
- ・ 温度や湿度が急激に変化する場所（結露が発生し、機器が損傷する可能性があります）
- ・ 振動や揺れの多い場所



製品を落としたり強い衝撃を与えない

破損や故障の原因になります。



タコ足配線しない

発熱、発火する可能性があります。



お子様のいる場所では大人の方が注意を

お子様が居る場所で製品を使用される場合は、製品を放置せず、事故のないよう特別な注意を払ってください。



長時間大音量で使用しない

大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。聴力低下や耳鳴りなどを感じたら、直ぐに使用を中止し、専門医に相談してください。



異常に気づいたらすぐに電源を切る

以下の場合には、すぐに製品の電源を切り、ACアダプターをコンセントから取り外します。

- ・ ACアダプター、電源コードおよびプラグが破損した場合
- ・ 煙が出たり、異臭がした場合
- ・ 製品が雨に濡れた場合
- ・ 物体が落下した場合、または液体が溢れた場合
- ・ 製品が動作しない場合、またはパフォーマンスに著しい異常が見られる場合
- ・ 製品を落とした場合



その後、お買い上げ店またはDirigentカスタマーサポートにご相談ください。



注意

ACアダプターおよび電源コードはプラグを持って抜く

断線を防ぐため、コードではなくプラグ自体を持ってACアダプターおよび電源コードを抜いてください。



濡れた手でACアダプターおよび電源コードを抜き差ししない

感電の原因となります。



ACアダプターおよび電源コードのプラグをキレイに保つ

定期的にACアダプターおよび電源コードのプラグを抜き、乾いた布で清掃してください。製品を長時間使用しないときは、コンセントからACアダプターおよび電源コードを抜いてください。



電源コードやケーブルが絡まないように配線する

足に引っかかると製品の落下や故障、怪我の原因となります。



清掃する際はACアダプターおよび電源コードをコンセントから抜く

製品やACアダプターなどをクリーニングする前には、感電や製品の故障を防ぐため、本体の電源を切り、ACアダプターをコンセントから抜いてください。



落雷の恐れがあるときはACアダプターをコンセントから抜く

ACアダプターをコンセントから抜いておかないと、感電や故障の原因となります。



製品の上に乗ったり、重いものを置いたりしない

転倒や落下によって、怪我や故障の原因となります。



換気のよい場所に設置する

製品本体およびACアダプターは、それぞれの換気を妨げないように設置してください。



温度が極端に高い場所・地域で使用しない

製品本体およびACアダプターは、温度が極端に高い場所・地域で使用しないでください。



コンセントの近くで使用する

ACアダプターを接続するコンセントは、本体になるべく近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。



2 使用上のご注意

「安全にお使いいただくために」(P.5)に加えて、以下もよくお読みいただき順守してください。



電源について

- 本機を、インバーターまたはモーターを使った電気製品と同じコンセントに接続しないでください。電源ノイズが発生し、誤動作や雑音の原因となります。
- 長時間連続して使用すると、ACアダプターが多少発熱することがありますが、故障ではありません。ACアダプターは換気のよい場所に置いてください。
- 本機を、外部機器と接続する前に、すべての機器の電源がオフになっていることを確認してください。感電や故障の原因となります。
- 本機は、演奏や操作をやめてから120分(2時間)経過すると自動的に電源が切れます(AUTO OFF機能)。自動的にオフにしたい場合は、P.65の説明に従って、「AUTO OFF設定」をOFFにしてください。

NOTE

AUTO OFF設定は、製品の電源をオフにすることで記憶されます。



お手入れについて

- 本機を清掃するには、柔らかい布をぬるま湯に浸し、よく絞ってから、同じ強さで表面全体を軽く拭きます。同じ部分を何度も強く拭くと、表面に傷がつく恐れがあります。
- 柔らかい布や羽毛でホコリを除いてください。指紋などは、湿らせた柔らかい布で拭いたあと乾いた布で拭くことでキレイになります。ひどい汚れを落とすときは、少量の中性洗剤を使用すると効果的です。研磨剤を含んだものや化学物質を含むものは使用しないでください。
- 変色や変形の原因となる、ベンジン、シンナー、アルコール類は使用しないでください。



設置について

- 本機をパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器の近くに設置しないでください。ハム(うなり)を誘導することがあります。この場合は、本機との距離や向きを変えてください。
- 本機をテレビやラジオの近くで動作させないでください。テレビやラジオの受信に影響が出る恐れがあります。
- iOSデバイス用の「Dexibell VIVO Editor」を本機と一緒に使用する場合、通信によるノイズを避けるため、iOSデバイスの機内モードをオンしてお使いください。
- 本機の近くで携帯電話などの無線機器を使用すると、着信時や発信時、通話時にノイズが出ることがあります。この場合は、無線機器を本機から遠ざけるか、電源を切ってください。
- 本機を極端に暑い場所(直射日光、暖房器具の近く、日中の車内など)や寒い場所に置かないでください。故障の原因となります。
- 極端に温度の違う場所に移動すると、内部に水滴が付く(結露)することがあります。そのまま使用すると故障の原因になります。その場合は、数時間放置して、結露がなくなってから使用してください。
- 本機の上に、ビニールやプラスチック、ゴムなどの物体を、長時間置かないでください。変色や変質の原因となります。
- 鍵盤の上に物を置いたままにしないでください。キーの誤動作の原因になります。
- シールやステッカーを貼らないでください。接着剤により、変色や変質の原因になります。
- 本機の上に液体の入った容器などを置かないでください。また、変色や変形の原因となる、ベンジン、シンナー、アルコール類は使用しないでください。表面に付着した液体は、速やかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。



修理について

- 本機の修理を依頼される際には、事前に事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理にあたって、記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含め一切の責を負いかねますのでご了承ください。



外部メモリーについて

- USBメモリーは、慎重に、また正しい角度でスロットに挿入します。
- USBメモリーの取り扱いには十分注意してください：
 - USBメモリーを取り扱う前に、身体に帯電している静電気を放電してください。
 - USBメモリーの接点には触れないでください。
 - USBメモリーを極端な温度環境に置かないでください。
 - USBメモリーが濡れないようにしてください。
 - USBメモリーを落としたり強い衝撃を与えないでください。
- データの読み込み中や書き込み中に、取り外さないでください。
- USBメモリーの接続に、USBハブは使用しないでください。
- USBメモリーは別売です。市販品をお使いください。
- USBメモリーへの音声データの記録には、USBメモリーが高い持続転送速度をサポートしている必要があります。すべてのUSBメモリーが安定した記録を保証するものではありません。



著作権および商標について

- Dexibell は、お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、一切の法的責任を負いません。
- 第三者の著作物（音楽作品、ライブパフォーマンスなど）の一部または全部を、著作権所有者の許可なしに、録音、複製、配布することは法律で禁止されています。
- iPad® および iPhone® は、Apple Inc. の登録商標です。
- App StoreSM は、Apple Inc. のサービスマークです。
- Bluetooth® は、Bluetooth SIG, Inc. の登録商標です。



その他の注意事項

- 記憶した内容は、機器の故障や誤操作などにより失われる可能性があります。データの損失を防ぐため、大切なデータは USB メモリーなどに定期的にバックアップをしてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、Dexibell は、補償も含め一切の責を負いかねますのでご了承ください。
- ボタンやスイッチ、スライダーおよびコネクタなどは、過度の力を加えないでください。故障の原因となる可能性があります。
- ケーブルを外すときは、ショートや断線を防ぐため常にコネクタ一部分を持って抜いてください。
- 周囲に迷惑がかからないように、音量に十分に注意してください。必要であればヘッドフォンをお使いください。
- 本機を輸送する場合は、入っていた箱や緩衝材、または同等の梱包材を使用してください。また、輸送、移動の際は常に二名以上で持ち運んでください。
- 損傷を防ぐため、譜面台に無理な力を加えないでください。
- 本機を接続する際は、低インピーダンスのケーブルを使用してください。抵抗入りのケーブルを使用すると、音量が極端に低くなるか、聞こえない可能性があります。

本マニュアル内のマークの例

本書中のマークは次のような意味があります。

NOTE

重要な注意事項を表します。必ずお読みください。

MEMO

設定や機能に関するメモを表します。

TIPS

操作に役立つヒントを表します。必要に応じてお読みください。

もくじ

安全にお使いいただくために	4
使用上のご注意	5
各部の名称とはたらき	8
フロント・パネル	8
リア・パネル	9
周辺機器との接続	10
クイック・ガイド	11
演奏する前に	12
ACアダプターを接続する	12
ACアダプターを固定する	12
ペダルについて	12
USBメモリーを接続する	12
USBメモリーを安全に取り外す	13
アースをとる	13
電源をオンにする	13
電源をオフにする	13
デモ曲を聴く	14
基本操作	15
ディスプレイの表示とカーソルの動かし方	15
メイン画面	15
データやファイルに名前をつける	16
カーソルの操作とパラメーター値の設定	16
主な接続	17
MIDIキーボードと接続する	17
USB MIDIキーボードを接続する	17
MIDIチャンネルの設定	17
パソコンと接続して使う	18
USBオーディオ機能	18
USBオーディオの入出力レベルの調節	18
音色を選ぶ	19
パートの選び方	19
音色の選び方	19
メイン画面で音色を選ぶ	19
[SOUND] ボタンで音色を選ぶ	19
音色のMIDI情報	19
パートとMIDIの設定	21
パートの設定	21
パートごとのトランスポーズ	21
MIDIセッティング	21
MIDI受信	21
MIDI送信	22
エフェクトをかける	23
サウンド・エフェクトについて	23
リバーブをかける	23
リバーブ・タイプを変更する	23
サウンド・ライブラリー	24
サウンド・ライブラリーの追加と削除	24
サウンド・ライブラリーを削除する	25
サウンド・ライブラリーを追加する	25
サウンドセット (インポート/エクスポート)	27
サウンドセットのエクスポート	27
サウンドセットのインポート	27
音色をカスタマイズする (T2L)	28
T2Lパラメーター	28
音色のカスタマイズ	30

その他の機能	31
マスター・イコライザー	31
プリセットのマスター EQを選ぶ	31
ユーザー・プリセットに保存する	31
データのバックアップ	31
データをUSBメモリーにバックアップする	31
バックアップ・データを戻す	32
工場出荷時の状態に戻す (Factory Reset)	32
音色を初期化する	32
メモリーとメモリーセット	33
メモリーとメモリー構造	33
インターナル・メモリーに設定を保存する	33
インターナル・メモリーから設定を呼び出す	33
USBメモリーに設定を保存する	33
USBメモリーから設定を呼び出す	35
メモリーの名前を書き換える	35
USBメモリーにメモリーセットをエクスポートする	35
USBメモリーからメモリーセットをインポートする	36
メモリーセットを削除する	36
電源オン時の設定を登録する	36
オーディオデータと合わせて演奏する	37
モバイル機器と接続する	37
X MUREアプリを使って演奏する	37
ファンクション・メニュー	38
基本操作	38
SOUND LIBRARY Functions	39
SOUND SETUP Functions	39
SETTING Parameters Group	39
T2L EDITOR	39
EFFECTS	39
CONTROL	40
TUNING	40
MEMORY	42
USB REMOVE	42
USB AUDIO	42
MIDI	42
GLOBAL	43
FACTORY RESET	43
FACTORY SOUND	43
BACKUP	43
VERSION INFO	43
付録	44
エフェクト・タイプとパラメーター・リスト	44
VIVO SX7 音色リスト	47
トラブルシューティング	48
技術仕様	49
インデックス	50

3 各部の名称とはたらき

フロント・パネル



1 電源ボタン

電源をオン/オフします。(→P.13)

約2時間操作をしないと、自動的に電源がオフになります。
電源が自動でオフになった場合は、[⏻] 電源ボタンで再び電源をオンにできます。

自動で電源がオフにならないようにするには、「オートパワーオフ」の設定を「OFF」にしてください。(→P.43)

NOTE

電源がオンの間は、電源コードを抜かないでください。故障の原因になります。

2 USB MEMORY 端子

- USBメモリーを接続して、メモリーやメモリーセットなどのデータをロードしたりセーブしたりできます。(→P.33)
- A-BタイプのUSBケーブルを使ってこの端子にキーボードを接続すると、パソコンやMIDIケーブルを使用せずにMIDIデータのやりとりができます。(→P.17)

NOTE

USBメモリーやUSBケーブルは、差し込む向きを確認し、正しい方向で挿入してください。

3 カーソル・ボタン

ディスプレイに表示される設定値の移動や、パラメーター値を入力します。

4 ファンクション・ボタン

ディスプレイに表示される3つの機能や項目に対応しています。ボタンを押して、いずれかの機能を選びます。

左右両端のボタンを同時に押すと、デモソングを再生します。

5 ディスプレイ

操作に関する情報を表示します。

ディスプレイには、その時に呼び出せる3つの機能や項目が表示されます。ディスプレイの下にあるファンクション・ボタンでそれぞれの機能を選びます。

6 [MENU/EXIT] ボタン

メニュー画面を開いたり、現在の画面から抜けます。

7 [MEMORY/WRITE] ボタン

データを保存するメモリーを選びます。

メモリーのリストを表示したり、メモリーを呼び出します。ボタンを長押しすると、設定をメモリーに書き込みます。(→P.33)

8 [SOUND] ボタン

選択しているパートの音色リストを表示し、音色を変更できます。(→P.19)

9 PHONES 端子

ヘッドフォンを接続します。

10 [DATA ENTRY] ノブ

ディスプレイに表示されるパラメーターの移動や、設定値を入力します。

11 [VOLUME] ノブ

VIVO SX7全体の音量を調節します。

12 ラックマウント用のアダプター

VIVO SX7を19インチラックに設置するとき 사용합니다。ラックへの設置方法は、ラックの取扱説明書をご参照ください。

リア・パネル

**13 DC IN 端子**

ACアダプターを接続します。(→P.12)

14 Ground 端子

お使いの環境によって、楽器を触るとビリビリした刺激を感じる場合は、この端子からアースをとることでこの症状を軽減することができます。(→P.13)

15 ケーブル固定具

電源ケーブルを固定します。(→P.12)

16 UNBALANCED OUTPUT R, L/MONO 端子

外部スピーカーやアンプなどの外部機器と接続し、外部機器から音を出します。(→P.10)

TSタイプ、XLRタイプ、どちらの端子からも同じオーディオ信号を出力します。

17 BALANCED OUTPUT R, L 端子

外部スピーカーやアンプなどの外部機器と接続し、外部機器から音を出します。(→P.10)

18 DAMPER PEDAL 端子

ダンパーペダルを接続します。
弾いている音にサスティンをかけます。(→P.40)

NOTE

音色の持つニュアンスをコントロールするために、この端子には連続タイプのペダルを接続することをお勧めします。

19 ASSIGN PEDAL (EXPRESSION) 端子

エクスプレッションペダルを接続し、アサインした機能をエクスプレッションペダルでコントロールできます。(→P.40)

この端子は、接続した機器を自動的にエクスプレッションペダルと認識します。現在アサインしている機能に関わらず、エクスプレッションの効果がかかります。

20 MIDI THRU/IN 端子

MIDI IN端子と外部キーボードのMIDI OUT端子を接続します。(→P.17)

MIDI THRU端子を使うと、複数の機器を連続して接続できます。

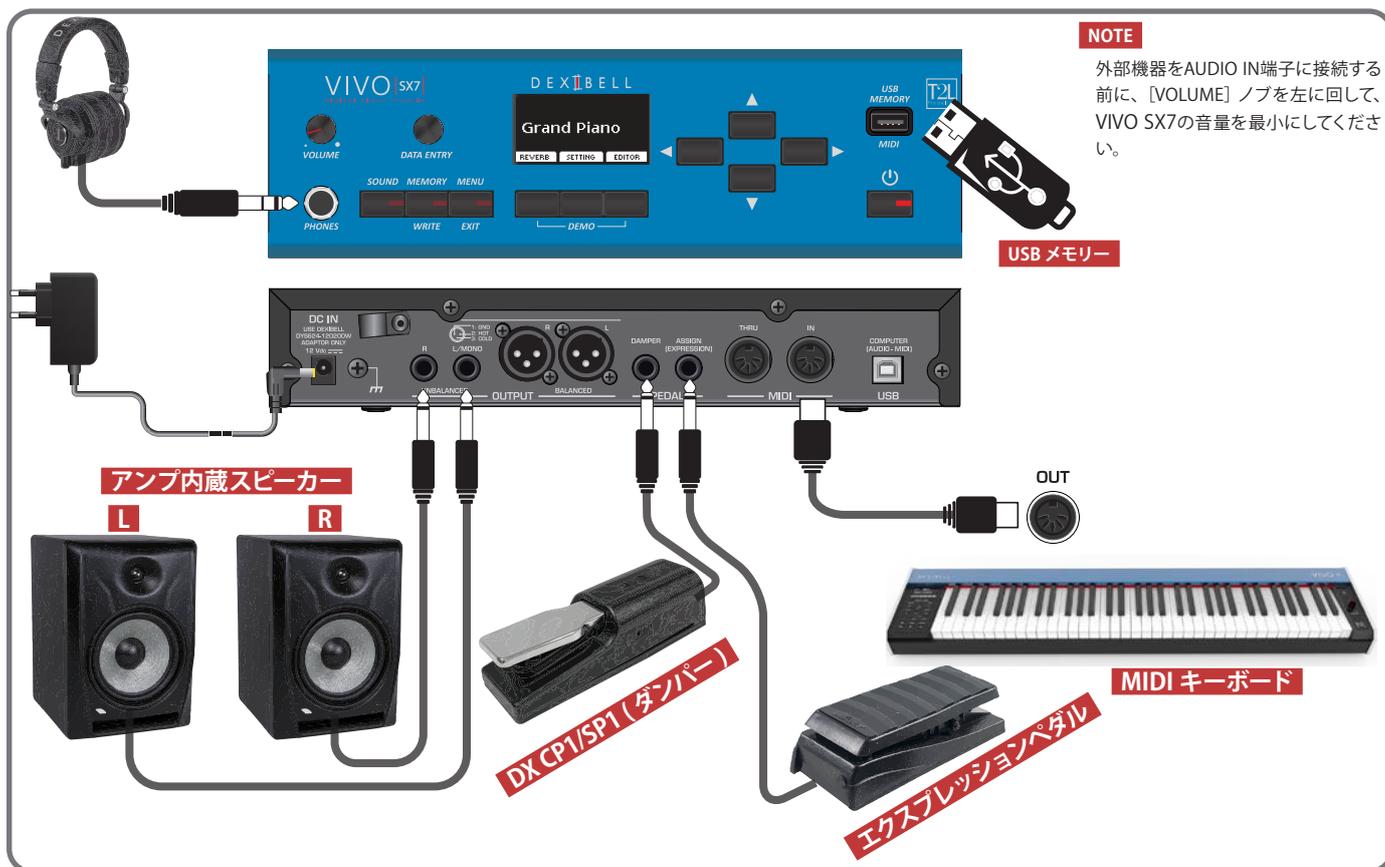
21 USB COMPUTER (AUDIO/MIDI) 端子

A-BタイプのUSBケーブルで、VIVO SX7とパソコンを接続します。
(→P.17) AUDIO/MIDI DAWソフトウェアを使用して、演奏データを保存できます。

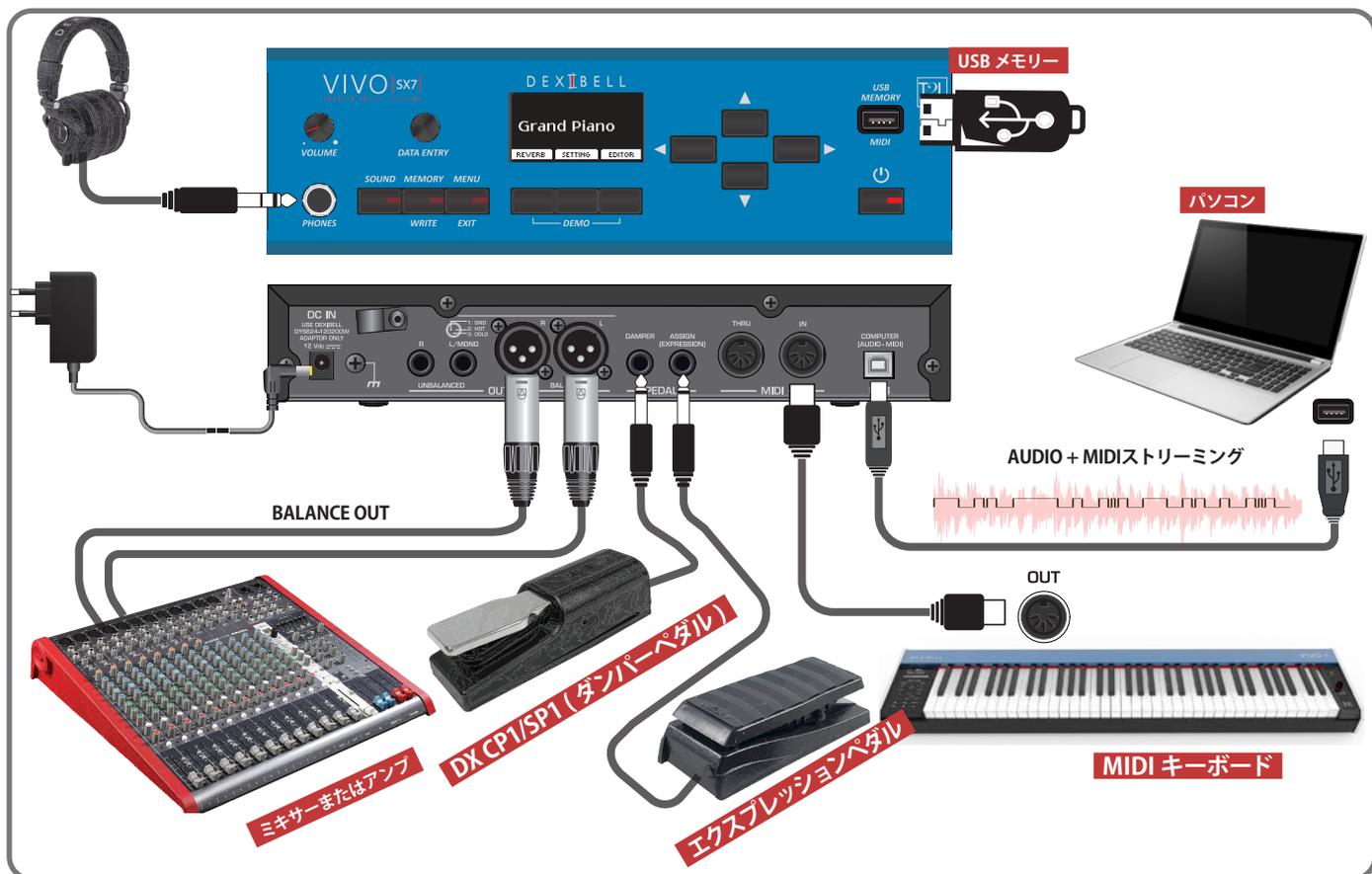
VIVO SX7は、MIDIメッセージと24ビット/48kHzのオーディオデータを送受信できます。

4 周辺機器との接続

基本接続



スタジオでの接続



5 クイック・ガイド

MENU/EXITボタン

メニュー画面を開いたり、閉じたりします。

DATA ENTRY

リストをスクロールしたり、設定値を入力したりします。

カーソル・ボタン

メイン画面のとき

[▲] [▼] ボタンでパートを選び、[◀] [▶] ボタンで、選んだパートの音色を変更します。

その他の画面のとき

[▲] [▼] ボタンでカーソルをスクロールし、[▶] ボタンでサブメニューを開きます。[◀] [▶] ボタンで設定値を入力します。

ファンクション・ボタン

ディスプレイに表示される3つの機能や項目に対応しています。ボタンを押して、いずれかの機能を選びます。

音色リスト

ボタンを押すと、音色リストが表示されます。選んでいるパートのカテゴリと音色名が一時的に表示されます。

- [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンを押して、音色リストをスクロールします。
- [◀] [▶] ボタンを押して、ひとつ前、または次の音色を選びます。

設定を登録する／呼び出す

VIVO SX7全体の設定を登録する

VIVO SX7の設定を記憶して、必要な時に簡単に呼び出すことができます。最大80個の設定を記憶できます。

1. [MEMORY/WRITE] ボタンを押し続けます。メモリー画面が表示され、ボタンが点滅します。
2. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンで、保存するメモリーの場所を選びます。
3. ファンクション・ボタンでSAVEを選びます。
4. [▲] [▼] ボタンと [◀] [▶] ボタンで設定に名前をつけます。
5. ファンクションボタンでディスプレイに表示されたOKを選び、内容を確認します。

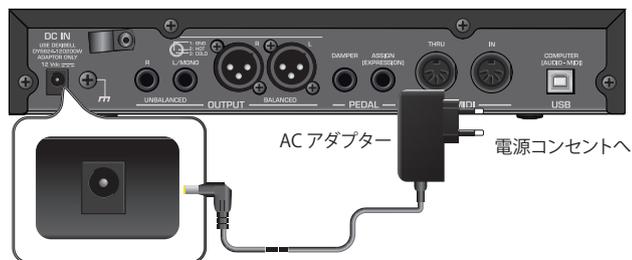
設定を呼び出す

1. [MEMORY/WRITE] ボタンを押して、メモリーページを呼び出します。
2. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンでメモリーを選びます。
3. ファンクション・ボタンでRECALLを選びます。

6 演奏する前に

ACアダプターを接続する

1. [VOLUME] ノブを左に回して音量を最小にします。
2. 付属のACアダプターを、VIVO SX7のリアパネルにあるDC IN端子に接続します。



DC IN 端子

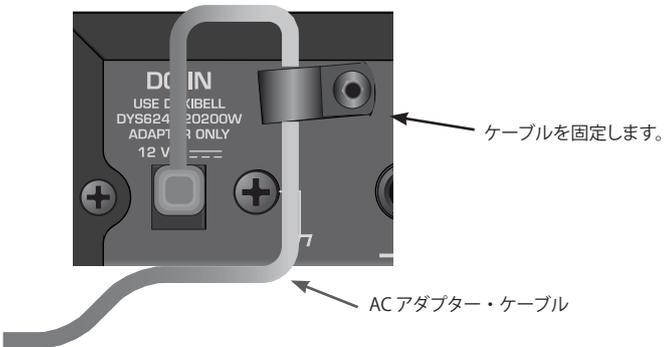
NOTE

- 必ず付属のACアダプターを使用してください。また、設置場所の電源電圧がACアダプター本体に指定されている入力電圧と一致していることを確認してください。付属品以外のACアダプターは、異なる極性や電圧用に設計されている場合があります。損傷、誤動作、または感電の原因となります。
- VIVO SX7を長期間使用しない場合は、電源コードを電源コンセントから抜いてください。
- 誤動作を防ぐため、機器の電源が入っているときにACアダプターを取り外さないでください。

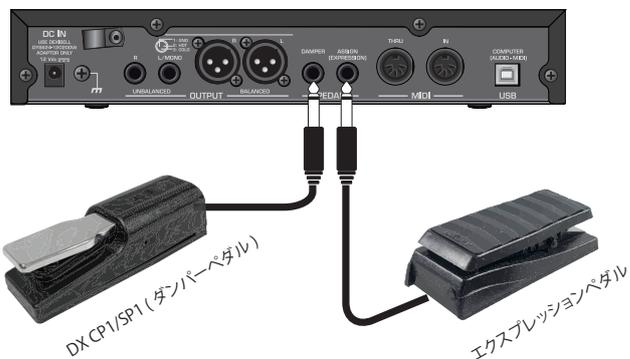
3. ACアダプターを電源コンセントに接続します。

ACアダプターを固定する

誤って電源コネクタが抜けないように、ケーブルを本体に固定します。



ペダルについて



1. DAMPER PEDAL端子にダンパーペダルまたはサステインペダルを接続します。

デジタルピアノで一般的に使われるペダルです。演奏中にペダルを踏むと、鍵盤を離しても音が自然に消えるまで鳴り続けます。

NOTE

- ピアノ音色の減衰を再現するには、スイッチ（オン／オフ）タイプのペダルではなく、連続タイプのペダルを接続することをお勧めします。
- DAMPER PEDAL端子には、スイッチ（オン／オフ）タイプと連続タイプ、どちらのタイプのペダルも接続できます。

2. PEDAL ASSIGN端子にエクスプレッションペダルを接続します。

エクスプレッションペダルでは様々なパラメーターをコントロールできませんが、一般的に音量のコントロールに使われます。オルガンやストリングス音色など、さまざまな音色に使用します。

エクスプレッションペダルの自動認識

PEDAL ASSIGN端子は、現在アサインされている機能に関わらず、接続されたペダルをエクスプレッションペダルと自動的に認識し、エクスプレッション機能を設定します。

アサインできる機能の一覧は、「PEDAL ASSIGN」(P. 40) をご参照ください。

NOTE

PEDAL ASSIGN端子には、スイッチ（オン／オフ）タイプと連続タイプ、どちらのタイプのペダルも接続できます。連続タイプのペダルを接続した場合、自動的にエクスプレッションペダルと認識されます。

USBメモリーを接続する

1. フロントパネルのUSB MEMORY端子にUSBメモリーを接続します。



NOTE

USBメモリーは差し込む向きを確認し、正しい方向で挿入してください。

USBメモリーを安全に取り外す

NOTE

USBメモリーを安全に取り外すために、USBメモリーをUSB MEMORY端子から取り外す前には必ずこの「USB REMOVE」操作をしてください。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押します。
2. [▲] [▼] ボタンで「USB REMOVE」を選びます。
3. [▶] ボタンを押します。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



4. ファンクション・ボタンでYESを選びます。
USBメモリーを安全に取り外すことができます。

アースをとる

お使いの環境によって、楽器を触るとピリピリした刺激を感じる場合は、この端子からアースをとることで、症状を軽減できます。



1. ネジ式のアース端子を使用してアースに接続するか、外部のミキサーやプリアンプなどの外部機器のシャーンに接続します。

電源をオンにする

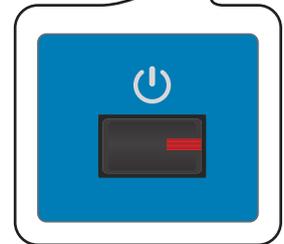
すべての接続が終わったら、次の手順に従って電源をオンにしてください。

1. [VOLUME] ノブを左に回し、音量を最小にします。

NOTE

VIVO SX7の電源をオン/オフする際は、必ずVIVO SX7の音量を最小にしてください。音量を下げても電源をオン/オフする際に音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

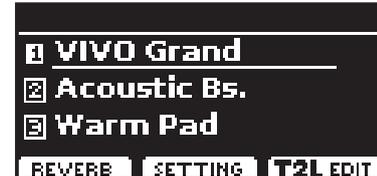
2. フロントパネルの [⏻] 電源ボタンを押して電源をオンにします。



電源が入り、ディスプレイに次のような画面が表示されます。



しばらくするとメイン画面が表示され、演奏ができる状態になります。



3. [VOLUME] ノブを回して音量を調節します。

NOTE

保護回路の働きにより、電源をオンしてから音が出る状態になるまでに、数秒の時間がかかります。

電源をオフにする

NOTE

誤動作を避けるために、機器の電源が入っている間は決してACアダプターを抜かないでください。

1. [VOLUME] ノブを左に回し、音量を最小にします。
2. [⏻] 電源ボタンを押します。
ディスプレイに次のような確認メッセージが表示されます。



3. ファンクション・ボタンでYESを選びます。

ディスプレイに次のようなメッセージが表示され、数秒後に電源がオフになります。

Turning Off ...

電源をオフにしない場合は、手順3 でNOを選びます。

NOTE

電源を完全にオフにするには、まずVIVO SX7の電源をオフしてから、電源コードをコンセントから抜いてください。「ACアダプターを接続する」(P. 12) をご参照ください。

電源がオンの状態で一定時間何も操作がないと、VIVO SX7は自動的に電源がオフになります。

自動で電源をオフにたくない場合は、「AUTO OFF」の設定を「OFF」にしてください。

初期設定では、VIVO SX7を最後に操作してから120分後に電源が自動的にオフになります。

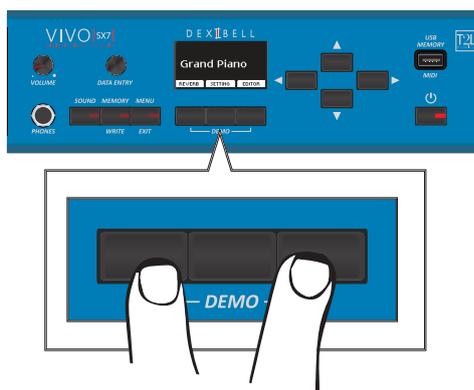
自動的に電源がオフになる少し前に、ディスプレイに電源がオフになるまでの時間をカウントダウン表示します。電源をオフにしない場合は、いずれかの鍵盤またはボタンを押してください。

電源を自動的にオフにしない場合は、「AUTO OFF」の設定を「OFF」に変更してください。詳細は「GLOBAL」(P. 43) をご参照ください。

デモ曲を聴く

VIVO SX7 の音色を紹介する、デモ曲が内蔵されています。

1. 左右両端のファンクション・ボタンを同時に押します。
デモ曲が再生されます。



2. [MENU/EXIT] ボタンを押して、デモ機能を終了します。

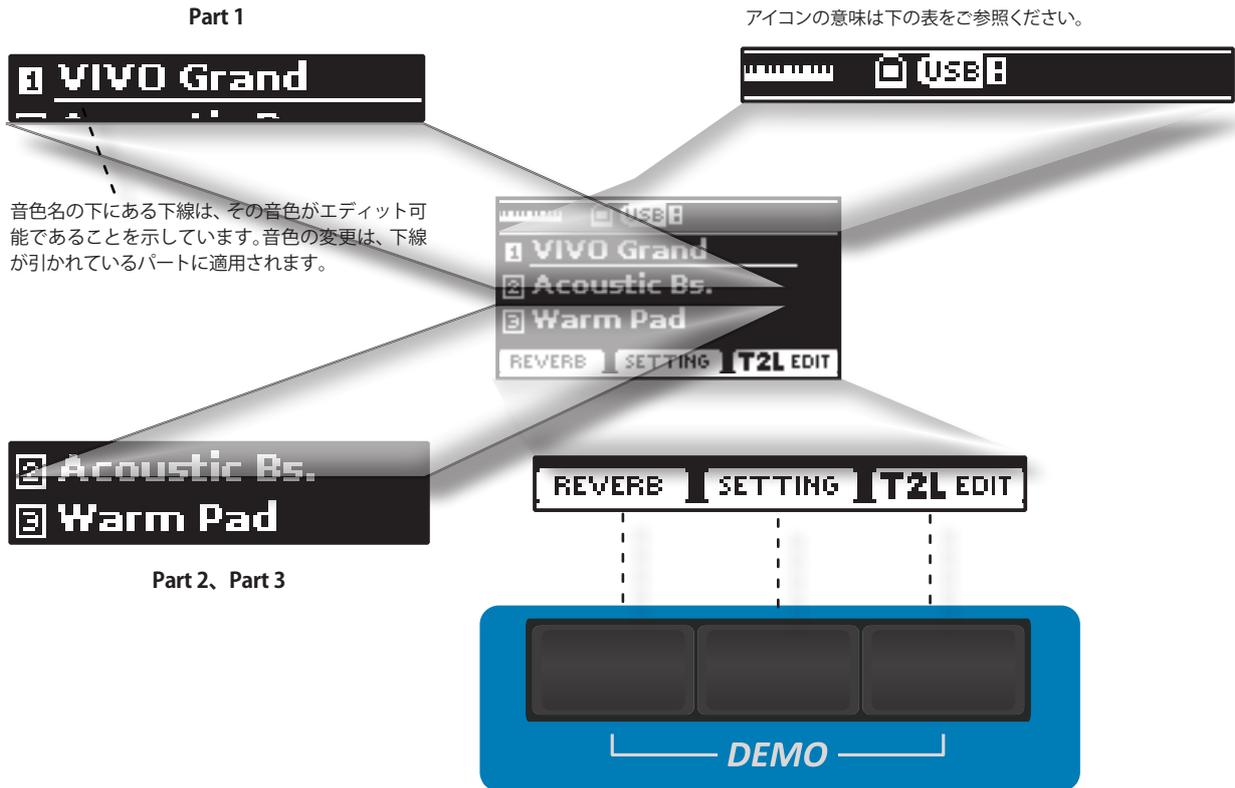
NOTE

すべてのデモ曲データはDexibell社が著作権を所有しています。個人的に楽しむ以外の目的でデモ曲データを許可なく使用することは、著作権法に違反します。

7 基本操作

ディスプレイの表示とカーソルの動かし方

メイン画面

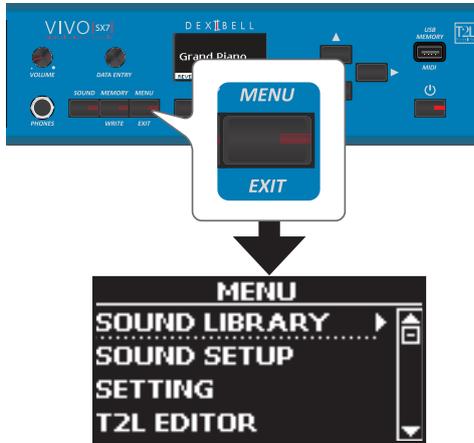


ディスプレイに表示される最大3つの機能またはオプションを選びます。

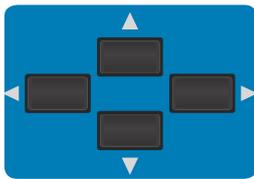
アイコン	説明
	VIVO SX7のUSB MEMORY端子にUSBメモリーが接続されています。
	パソコンがVIVO SX7のUSB COMPUTER端子に接続されています。
	USBメモリーが接続されています。

カーソルの操作とパラメーター値の設定

1. [MENU/EXIT] ボタンを押して、メニュー画面に入ります。



2. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンで、ファンクション・グループを選びます。



3. [▶] ボタンを押して、選んだファンクション・グループに入ります。



ファンクション・グループの中のパラメーターがグループ化されている場合は、[▲] [▼] ボタンでパラメーター・グループを選び、[▶] ボタンを押してパラメーター・グループに入ります。

4. [▲] [▼] ボタンで編集するパラメーターを選びます。
選ばれているパラメーターの表示が白黒反転します。

5. [DATA ENTRY] ノブで値を設定します。



6. [MENU/EXIT] ボタンを押して、メイン画面に戻ります。

データやファイルに名前をつける

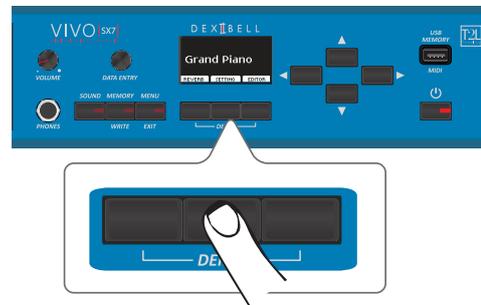
ファイルやパラメーターに名前を付ける方法を、メモリーに名前をつける場合を例に説明します。

メモリーの保存を選ぶと、ディスプレイには次のような画面が表示されます。初めは仮の名前が表示されます。

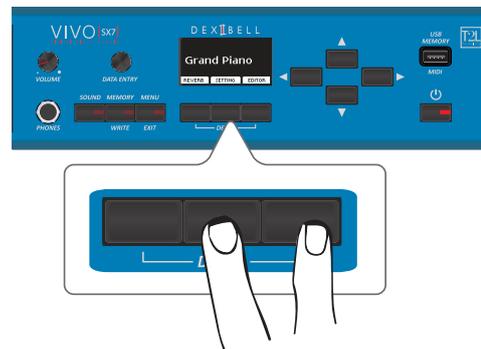


1. [◀] [▶] ボタンで変更する文字にカーソルをあわせ、[▲] [▼] ボタンで文字を選びます。

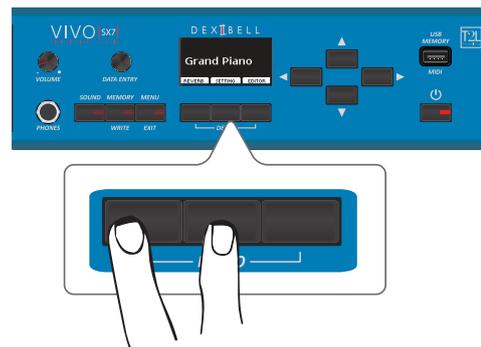
ファンクション・ボタンで A/a/# を選ぶと、入力文字の大文字／小文字／数字を切り替えることができます。



選んだ文字を削除するには、真ん中と右側のファンクション・ボタンを同時に押します。



文字を挿入するには、左側と真ん中のファンクション・ボタンを同時に押します。



2. 上記操作を繰り返して名前をつけます。

8 主な接続

VIVO SX7をMIDIまたはUSBで外部キーボードと接続すると、接続したキーボードでVIVO SX7をコントロールできます。

MIDIキーボードと接続する

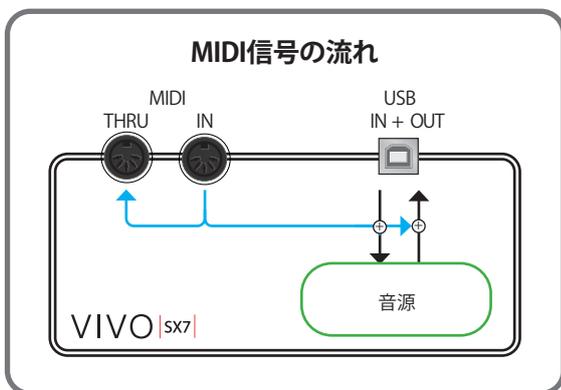
図のようにVIVO SX7とパソコンを接続すると、VIVO SX7をMIDIインターフェースとして使用できます。

VIVO SX7のMIDI INで受信したMIDIメッセージは、VIVO SX7のオーディオと一緒にUSB COMPUTER端子につながった先の機器へと送信されます。

1. [VOLUME] ノブを回して音量を最小にします。
2. MIDIケーブル（別売）で、VIVO SX7のMIDI IN端子と外部MIDIキーボードのMIDI OUT端子を接続します。



3. DAWソフトウェアを使用する場合は、A-BタイプのUSBケーブル（別売）でVIVO SX7のUSB COMPUTER端子とパソコンのUSB端子を接続します。



USB MIDIキーボードを接続する

次の図のようにVIVO SX7とパソコンを接続すると、VIVO SX7をMIDIインターフェースとして使用できます。

VIVO SX7のUSB MEMORY端子で受信したMIDIメッセージは、USB COMPUTER端子と接続した機器へ送信されます。

1. [VOLUME] ノブを回して音量を最小にします。
2. A-BタイプのUSBケーブル（別売）で、VIVO SX7のUSB MEMORY端子と外部MIDIキーボードのUSB端子を接続します。



3. DAWソフトウェアを使用する場合は、A-BタイプのUSBケーブルでVIVO SX7のUSB COMPUTER端子とパソコンのUSB端子を接続します。



MIDIチャンネルの設定

VIVO SX7には3つのパートがあります。各パートごとにMIDIチャンネルを設定し、接続した機器のMIDIチャンネルと合わせます。

各パートのMIDIチャンネルは以下のとおりです。

パート	MIDI RXチャンネル (初期値)
PART 1	1
PART 2	2
PART 3	3
MEMORY	15

MEMORYパートは、メモリーの呼び出しに使用します。詳細については、「MIDI」(P. 42) をご参照ください。

接続する機器のMIDI設定についての詳細は、接続する機器の取扱説明書をご参照ください。

パソコンと接続して使う

USBケーブル（別売）でVIVO SX7のUSB COMPUTER端子とパソコンのUSB端子を接続すると、MIDIソフトウェア（DAWソフトウェア）でオーディオデータやMIDIデータの録音と再生ができます。

NOTE

Windows OSの環境では、USBオーディオ・ストリーミングを利用できません。

1. A-BタイプのUSBケーブルで、VIVO SX7とパソコンを接続します。

VIVO SX7のオーディオ出力をパソコンで録音でき、パソコンからのオーディオ出力を、VIVO SX7のAudio OUTPUT端子に接続したオーディオシステムから再生できます。

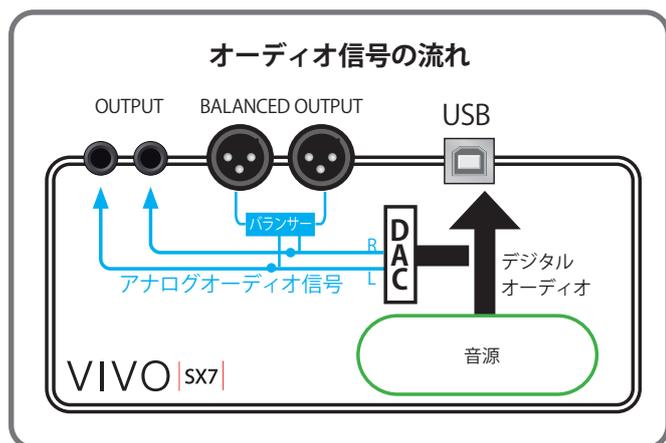


NOTE

- ・ パソコンでDAWソフトウェアを起動する前に、VIVO SX7の電源をオンにします。
- ・ 外部機器を接続する際は、VIVO SX7の [VOLUME] ノブを回して音量を最小にした状態で接続してください。

USBオーディオ機能

USBオーディオを使うと、内部のDAコンバーターを使用せずにVIVO SX7のオーディオを直接録音できます。これによりノイズが低減し、音質も向上します。



VIVO SX7のオーディオ・フォーマットは以下のとおりです。

サンプリング・レート	48 kHz
ビット	24
チャンネル数	3

NOTE

Windows OSの環境では、USBオーディオ・ストリーミングを利用できません。

USBオーディオの入出力レベルの調節

USBオーディオの入力と出力のレベルを調節します。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押して、USB AUDIOを選びます。



2. [▲] [▼] ボタンで、編集するパラメーターを選びます。

3. [DATA ENTRY] ノブで入出力のレベルを調節します。

9 音色を選ぶ

VIVO SX7には幅広い種類の、高品質な音色が内蔵されています。特にピアノの音色は、新たに開発した音源により、アコースティックピアノの微妙なニュアンスを忠実に再現しています。

音色は6つのカテゴリに分類されており、3つのパートに音色を割り当てることができます。

音色の設定は、ディスプレイで下線がついたパート (Part 1~Part 2) に対して適用されます。

パートの選び方

音色を変更する前に、音色を変更するパートを選びます。

1. ディスプレイにメイン画面が表示されている状態で、[▲] [▼] ボタンでパートを選びます。



選んでいるパートに下線が付きます。

音色の変更は、下線がついたパートに適用されます。

音色の選び方

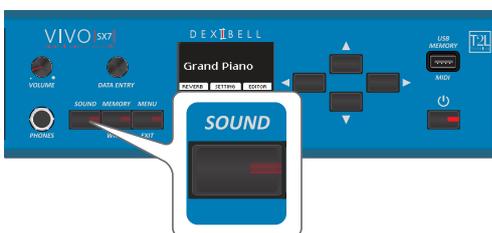
メイン画面で音色を選ぶ

1. [DATA ENTRY] ノブまたは [◀] [▶] ボタンで音色を選びます。同じカテゴリ内の音色を選ぶことができます。



[SOUND] ボタンで音色を選ぶ

1. [SOUND] ボタンを押します。音色リストの画面が開きます。



[SOUND] ボタンが点灯し、ディスプレイに選ばれているパートの音色リストが表示されます。このとき、選ばれている音色には下線が付きます。

音色カテゴリ



2. ディスプレイに音色リストが表示されている状態で、[◀] [▶] ボタンでカテゴリを選びます。
3. ディスプレイに音色リストが表示されている状態で、[DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンでそのカテゴリ内の音色を選びます。

MEMO

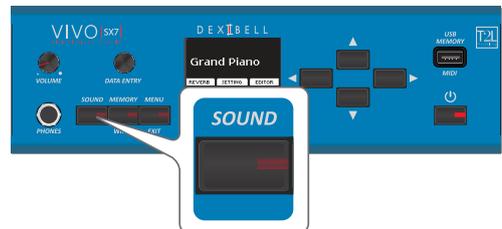
- 数秒間、音色変更の操作をしないと、ディスプレイの表示はメイン画面に変わります。操作中に音色リストが閉じた場合は、もう一度 [SOUND] ボタンを押します。
- 選べる音色については、「VIVO SX7 音色リスト」(P.47) をご参照ください。

音色のMIDI情報

MIDI経由で音色を選ぶことができます。このとき、通常は表示されない内部アドレスを使用します。

シーケンサーや外部MIDIアプリケーションからVIVO SX7内部の音色を指定する場合、この内部アドレス (音色のCC00、CC32、PCの値) が必要となります。内部アドレスは巻末の「VIVO SX7 音色リスト」(P.47) に記載していますが、VIVO SX7本体からは以下の方法で調べることができます。

1. [SOUND] ボタンを押します。ディスプレイに音色リストが表示されます。



[SOUND] ボタンが点灯し、ディスプレイに選んだパートの音色リストが表示されます。このとき、選ばれている音色には下線が付きます。



2. ディスプレイ下にあるファンクション・ボタンのいずれかひとつを押します。



ディスプレイに、音色のMIDI情報が一時的に表示されます。



10 パートとMIDIの設定

パートの設定

各パートごとに、ボリューム、パンポット、オクターブ、キーボード・レンジなどを設定できます。

1. ディスプレイにメイン画面が表示されている状態で、ファンクション・ボタンでSETTINGを選びます。

PART1 SETTINGの画面が開きます。



2. [▲] [▼] ボタンで編集するパラメーターを選びます。

選んだパラメーターの表示が白黒反転します。

3. [DATA ENTRY] ノブまたは [◀] [▶] ボタンで設定値を選びます。

MEMO

他のパートを編集するには、ファンクション・ボタンでPART 2またはPART 3を選びます。

PART 1～PART 3のパラメータ詳細は以下のとおりです。

パラメーター	設定値	説明
Level	0 ~ 127	パートのレベルを調節します。0に設定すると、音は鳴りません。
Panpot	-64 ~ 0 ~ 63	音のステレオ定位を設定します。0に設定すると音は中央に位置し、+の値は右に、-の値は左に音が定位します。
Octave	-4 ~ 0 ~ +4	音程を、最大4オクターブの範囲でオクターブ単位で上げ下げします。
Mute	OFF, ON	ONに設定するとパートがミュートされ、音が鳴りません。
Coarse Tune	-24 ~ 0 ~ +24	音の高さを半音単位で調節します。
Fine Tune	-99 ~ 0 ~ +99	音の高さを1セント (1/100半音) 単位で調節します。
Note Low	A0 ~ C8	音の高さを1セント (1/100半音) 単位で調節します。
Note High	A0 ~ C8	音の高さを1セント (1/100半音) 単位で調節します。

パートごとのトランスポーズ

パートごとに音程を半音単位で上げ下げできます。

異なるキーに調整された楽器と演奏したり、普段と違うキーで演奏したり、歌ったりする場合に便利です。

1. [MENU] ボタンを押して、SETTING、TRANPOSEの順に選びます。

2. [DATA ENTRY] ノブで設定値を選びます。

トランスポーズ設定値
-12 ~ 0 ~ +12 (半音単位)

MIDIセッティング

MIDIは電子楽器の標準規格です。MIDIケーブルを使って他の機器と接続することで、機器の種類やメーカーを問わず、音楽データをやりとりすることができます。

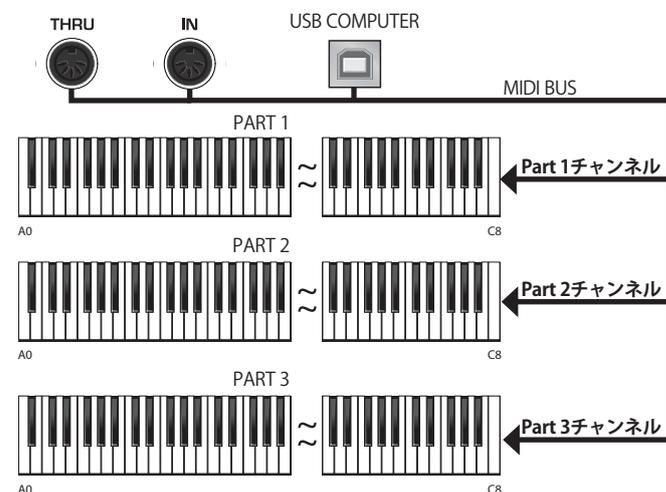
MIDIを使うと、VIVO SX7とMIDIキーボードまたはパソコンの間で音楽データをやりとりできます。「主な接続」(P. 17)をご参照ください。

VIVO SX7のMIDI THRU端子を使うと、複数の機器を連続して接続できます。

各パートのMIDIチャンネルの初期値は以下のとおりです。

パート	MIDI RX/TX チャンネル (初期値)
Part1	1
Part2	2
Part3	3
Memory	15

Memoryパートについては、「MIDI」(P. 42)をご参照ください。



MIDI受信

VIVO SX7には3つのパートがあります。パートごとに受信できるチャンネルが異なり、MIDI IN端子とUSB COMPUTER端子からの、同じチャンネルのMIDI情報を受信します。

パートごとに、MIDIチャンネルの設定やMIDI情報をフィルタリングしたり、MIDI情報の受信を無効にしたりできます。

1. [MENU] ボタンを押して、MIDIを選びます。



2. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] でReceptionを選び、[▶] ボタンを押します。

Reception画面に入ります。



3. [DATA ENTRY]ノブと[▶]ボタンでパートを選び、編集するパラメーターの設定画面に入ります。



図はPart1を選んだときの表示です。

4. [▲][▼]ボタンでパラメーターを選びます。
選んだパラメーターの表示が白黒反転します。
5. [DATA ENTRY]ノブで値を設定します。

PART 1~PART 3のパラメータ詳細は以下のとおりです。

Part 1, Part 2, Part 3		
パラメーター	設定値	説明
Status	OFF, ON 初期値: On	ONに設定すると、MIDIデータを受信します。
Channel	1 ~ 16	MIDI受信チャンネルを設定します。
Shift	-48~0~+48 初期値: 0	受信したノート情報を、VIVO SX7の音源に送る前にトランスポーズします。半音単位で最大4オクターブ(±48)の範囲で音程を上げ下げできます。設定値は半音単位です。
Modulation	OFF, ON 初期値: On	ON: メッセージを受信します。 OFF: メッセージを受信しません。
Volume		
Panpot		
Expression		
Reverb		
Chorus		
Hold		
Sostenuto		
Soft		
PG (Program Change)		
PB (Pitch Bender)		

MEMO

- 他のパートを設定するには、ファンクション・ボタンでPART2またはPART3を選びます。
- Memoryパートのパラメータについては、「MIDI」(P.42) をご参照ください。

MIDI送信

VIVO SX7はノート情報は送信しませんが、ボリューム、モジュレーション、エクスプレッション、プログラムチェンジなどのMIDI情報をUSB端子から送信します。

イベントごとに送信するかどうかを設定できます。

1. [MENU] ボタンを押して、MIDIを選びます。



2. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲][▼] ボタンでTRANSMISSIONを選び、[▶] ボタンを押します。

TRANSMISSION画面に入ります。



3. [DATA ENTRY]ノブと[▶]ボタンでパートを選び、設定するパラメーターを選びます。



図はPart 1を選んだ時にディスプレイの表示です。

4. [▲][▼] ボタンで設定するパラメーターを選びます。
選んだパラメーターの表示が白黒反転します。
5. [DATA ENTRY] ノブで設定値を選びます。

PART 1~PART 3のパラメータ詳細は以下のとおりです。

Main, Coupled, Lower		
パラメーター	設定値	説明
Status	OFF, ON 初期値: ON	ONに設定すると、MIDIデータを送信します。
Channel	1 ~ 16	MIDI送信チャンネルを設定します。
Modulation	OFF, ON 初期値: OFF	ON: メッセージを送信します。 OFF: メッセージを送信しません。
Volume		
Panpot		
Expression		
Reverb		
Chorus		
Hold		
Sostenuto		
Soft		
PG (Program Change)		
PB (Pitch Bender)		

MEMO

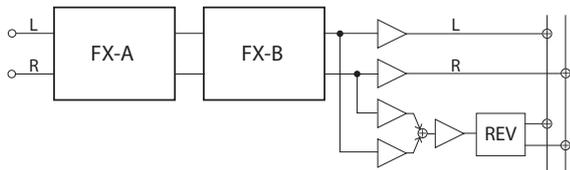
- 他のパートを設定するには、ファンクション・ボタンでPART2またはPART3を選びます。
- Memoryパートのパラメータについては、「MIDI」(P.42) をご参照ください。

11 エフェクトをかける

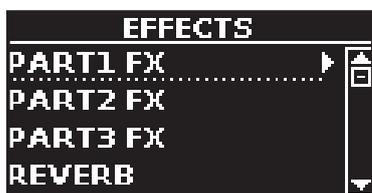
サウンド・エフェクトについて

VIVO SX7は、各パート (Part 1、Part 2、Part 3) ごとに2つのエフェクター (FX-AとFX-B) を搭載しています。

音色を選ぶと、選んだ音に最適なエフェクトを自動的に付加します。



1. [MENU] ボタンを押して、EFFECTSを選びます。



2. [DATA ENTRY] ノブまたは[▲][▼]ボタンで編集するパートを選び、[▶]ボタンを押します。

選んだパートのエフェクト設定画面に入ります。



図はPart 1を選んだときのディスプレイの表示例です。

3. [DATA ENTRY] ノブでエフェクトのタイプを選びます。
ファンクション・ボタンでON/OFFを選ぶと、エフェクトのオン/オフを切り替えることができます。
エフェクトタイプについての詳細は、「エフェクト・タイプとパラメーター・リスト」(P.44) をご参照ください。
4. [▲][▼]ボタンで、エディットするパラメーターを選びます。
5. [DATA ENTRY] ノブでパラメーターの値を設定します。
エフェクトごとの設定パラメーターの詳細は、「エフェクト・タイプとパラメーター・リスト」(P.44) をご参照ください。

MEMO

2番目のFXプロセッサの設定を変更するには、ファンクション・ボタンを押してFX-Bを選びます。

リバーブをかける

リバーブを使用することで、音に深みと表現力をもたせ、生楽器のようなリアルな響きを表現できます。

リバーブは様々なタイプがあり、パートごとにリバーブのかかり具合を調節できます。

1. ディスプレイにメイン画面が表示されている状態で、一番左のファンクション・ボタンを押してREVERBを選びます。



ディスプレイに次のような画面が表示されます。



MEMO

[MENU] ボタンを押し、EFFECTS、REVERBの順に選んでも、この画面に入ります。

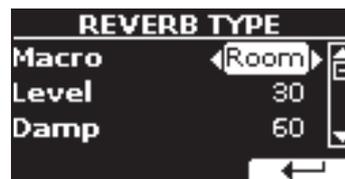
2. [▲][▼]ボタンで、リバーブ・レベルを変更するパートを選びます。
3. [DATA ENTRY] ノブでリバーブ・レベルを調節します。

リバーブ・タイプを変更する

1. ディスプレイにREVERB画面が表示されている状態で、ファンクション・ボタンでTYPEを選びます。



2. [DATA ENTRY] ノブで、Macro Typeを選びます。



設定可能なリバーブタイプは次の通りです。

設定値

Hall, Dark Hall, Mid Hall, Concert Hall, Large Hall, Chathedral, Arena, Cave, Chamber, Room, Venue, Ambience, Wooden Room, Brick Room, Studio Booth, Small Room, Living Room, Office, Warehouse, Music Club, Plate, Small Spring, Bright Spring, AmpSpring.

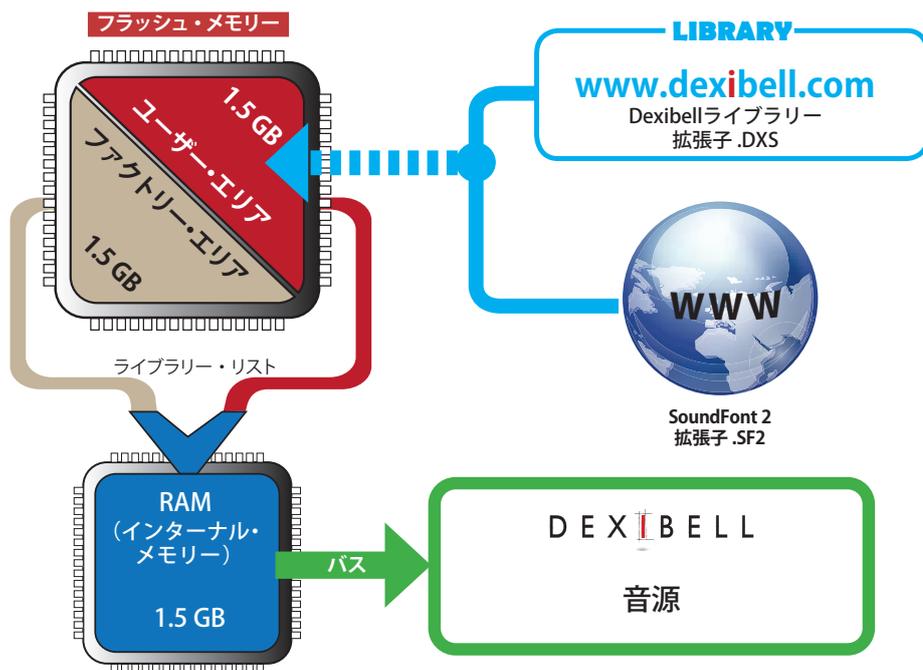
12 サウンド・ライブラリー

サウンド・ライブラリーとは

Dexibell製品に含まれる音色は、波形を再現するための複数のオシレーターによって作られています。音色情報にはピッチ、TVA/TVFエンベロープ、フィルターなどの情報が含まれ、これらすべての情報が「音色」を形成しています。

サウンドライブラリーの中には同じウェーブ・フォームを使用した音の複数があります。例えばElectric Pianoのサウンド・ライブラリーとしては、Dyno Stage、Suitcase、Phaser EPなどがあります。

サウンド・ライブラリーのメモリーの構成



VIVO SX7の内部フラッシュ・メモリーには、サウンド・ライブラリーが含まれています。このメモリーは、1.5 GBずつ2つに分かれています。

- 1つ目のファクトリー・エリアはVIVO SX7のファクトリー・サウンド・ライブラリー用で、削除することはできません。
- 2つ目はユーザーによって変更可能な領域で、ここにユーザー・サウンド・ライブラリーを保存します。

VIVO SX7の電源をオンにすると、サウンド・ライブラリーをロードするためのライブラリー・リストを使用して、内部フラッシュ・メモリーから1.5 GBのRAM（インターナル・メモリー）にサウンド・ライブラリーをロードします。初期状態では、ライブラリー・リストにはファクトリー・サウンド・ライブラリーのみが含まれます。

Dexibellサウンド・ライブラリー (<https://www.dexibell.com>) またはサードパーティのサウンド・ライブラリー (拡張子 .SF2) から新しいサウンド・ライブラリーを取得し、ユーザー・エリアにロードできます。

サウンド・ライブラリーをロードするためのライブラリー・リストは編集でき、どのサウンド・ライブラリー（ユーザー・エリアまたはファクトリー・エリア、もしくはその両方から）をインターナル・メモリーにロードするかを選ぶことができます。

サウンド・ライブラリー



新しい音色をVIVO SX7にインストールできます。

- Dexibell Official Sounds (拡張子 : .DXS)

以下のサイトからダウンロードできます。

<https://www.dexibell.com/>

随時新しいデータがアップされますので、こまめにチェックしてみてください。

- third-party sounds (拡張子 : .SF2)

VIVO SX7は.SF2の拡張子を持つサウンド・ライブラリーと互換性があります。Webでお探しください。

サウンド・ライブラリーの追加と削除

SOUND LIBRARY画面では、インターナル・メモリーにインポートするサウンド・ライブラリーを選んだり、削除したりできます。

NOTE

ここで削除したサウンド・ライブラリーは、完全には削除されません。データはファクトリー・サウンド・ライブラリーとしてメモリー内に残っているため、再びロードすることができます。詳細は「ファクトリー・エリアのサウンド・ライブラリーをロードする」(P.26)、「音色を初期化する」(P.32)をご参照ください。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押し、[DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンでSOUND LIBRARYを選び、[▶] ボタンを押します。



ディスプレイに次の画面が表示されます。



インターナル・メモリー内のサウンド・ライブラリーが表示されます。各サウンド・ライブラリー名の左にあるアイコンの意味は、次のとおりです。

アイコン	説明
	ファクトリー・エリアにあるサウンド・ライブラリーです。
	ユーザー・エリアにあるサウンド・ライブラリーです。

ディスプレイに表示されるREMOVEとADDで、サウンド・ライブラリーの追加と削除ができます。

サウンド・ライブラリーを削除する

1. [MENU/EXIT] ボタンを押し、SOUND LIBRARYを選びます。



2. [DATA ENTRY] ノブまたは[▲][▼] ボタンで、削除するサウンド・ライブラリーを選びます。

サウンド・ライブラリーに含まれる音色を確認するには、[▶] ボタンを押します。



サウンド・ライブラリーに含まれる音色を聴くには、[▲][▼] ボタンで音色を選び、VIVO SX7に接続した外部MIDIキーボードの鍵盤を弾きます。確認後、ファンクション・ボタンで◀を選び、SOUND LIBRARY画面に戻ります。

3. 削除するサウンド・ライブラリーを選び、ファンクション・ボタンでREMOVEを選びます。

ディスプレイに次のような確認メッセージが表示されます。



4. 選んだサウンド・ライブラリーを削除するには、ファンクション・ボタンでYESを選びます。

削除しない場合は、ファンクション・ボタンでNOを選びます。

サウンド・ライブラリーの削除に関する注意事項

- ファクトリー・サウンド・ライブラリーの音色は、音色自体は削除されませんが、VIVO SX7起動時に読み込むライブラリー・リストから削除されます。
- ユーザー・サウンド・ライブラリーの音色を削除した場合、データは完全に削除され、再び戻すことはできません。必要な場合は削除作業の前にバックアップをしてください。

サウンド・ライブラリーを追加する

1. [MENU/EXIT] ボタンを押し、SOUND LIBRARYを選びます。



2. ファンクション・ボタンでADDを選びます。

ディスプレイに、以前削除したサウンド・ライブラリーが表示されます。



上図では、削除したサウンド・ライブラリーのリストがないので、以前削除したサウンド・ライブラリーが存在しないことを示します。この場合、USBメモリー内にあるサウンド・ライブラリーのみを追加できます。

下図の例では、以前削除したINTERNAL ARCHIVEの音色が表示されています。



インターナル・メモリーの空き容量を確認するには、ファンクション・ボタンを押してFREE SIZEを選びます。



ディスプレイにインターナル・メモリーの空き容量と、全体に対する割合(%)が表示されます。

新しいサウンド・ライブラリーをインターナル・メモリーにロードする際、十分な容量があるかどうかを確認する場合に便利です。

USBメモリーからインポートする

ユーザー・エリアにサウンド・ライブラリーをインポートし、VIVO SX7の演奏で使用できます。インポートには、USBメモリーとパソコンが必要です。

1. パソコンを使用して、Dexibell Webサイトまたは他のWebサイトからサウンド・ライブラリー(.DXSまたは.SF2)をダウンロードします。

2. USBメモリーのルートに「SOUND」という名前のフォルダを作成します。
3. サウンド・ライブラリー（.DXSまたは.SF2）をUSBメモリーの「SOUND」フォルダにコピーします。
4. 手順3でサウンド・ライブラリーのデータを入れたUSBメモリーを、VIVO SX7のUSB MEMORY端子に接続します。
5. INTERNAL ARCHIVE画面からファンクション・ボタンでUSBを選びます。USBメモリー内のサウンド・ライブラリーが表示されます。ディスプレイにUSBメモリー内のSOUNDフォルダの内容が表示されます。



MEMO

- [▶] ボタンで選んだフォルダを開き、[◀] ボタンでひとつ上の階層に戻ります。
- ファンクション・ボタンでINTERNALを選ぶと、インターナル・アーカイブの画面に戻ります。

6. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンで、インポートするサウンド・ライブラリーを選びます。

[▶] ボタンを押すと、サウンド・ライブラリーが開き、サウンド・ライブラリーに含まれる音色名が表示されます。



音を確認するには、[DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンで音色を選び、VIVO SX7に接続した外部MIDIキーボードの鍵盤を弾きます。

サウンド・ライブラリーのサイズを確認するには、ファンクション・ボタンを押してINFOを選びます。ディスプレイにサイズが表示されます。



7. ファンクション・ボタンでIMPORT ALLを選び、サウンド・ライブラリーをインポートします。

ディスプレイに、インポートするカテゴリーを選ぶ画面が表示されます。



8. [DATA ENTRY] ノブまたは [◀] [▶] ボタンで、インポート先のカテゴリーを選びます。

9. ファンクション・ボタンを押してEXECUTEを選びます。

インポートが終わると、ディスプレイに確認メッセージが表示されます。

ファクトリー・エリアのサウンド・ライブラリーをロードする

一度削除したファクトリー・エリアのサウンド・ライブラリーを、もう一度VIVO SX7にロードします。



1. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンで、再度読み込むサウンド・ライブラリーを選びます。

2. [▶] ボタンを押します。

サウンド・ライブラリーに含まれる音色が表示されます。



3. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンで音色を選びます。

VIVO SX7に接続した外部MIDIキーボードの鍵盤を弾いて音を確認できます。

サウンド・ライブラリーのサイズを確認するには、ファンクション・ボタンでINFOを選びます。ライブラリーのサイズが表示されます。



4. 選んだサウンド・ライブラリーをインポートするには、ファンクション・ボタンでIMPORT ALLを選びます。

ディスプレイに、インポートするカテゴリーを選ぶ画面が表示されます。



5. [DATA ENTRY] ノブまたは [◀] [▶] ボタンで、インポートする音色のカテゴリーを選びます。

6. ファンクション・ボタンでEXECUTEを選びます。

ライブラリーがインポートされ、ディスプレイに確認メッセージが表示されます。

NOTE

工場出荷時の音色に戻すには「音色を初期化する」(P. 32) をご参照ください。

13 サウンドセット(インポート/エクスポート)

パフォーマンス用の音色セット(サウンドセット)を準備できます。

例えば、パフォーマンス(演奏)でピアノ音色のみを使う場合、ピアノ音色ひとつをサウンドセットに設定します。そうすることで、VIVO SX7内部メモリの最大サイズを、ピアノ音色のためだけに使用することができます。

サウンドセットのエクスポート

準備したサウンドセットをUSBメモリーにエクスポートします。

1. 「サウンド・ライブラリーの追加と削除」(P. 24)を参照し、サウンドセットを準備します。
2. USBメモリーをUSB端子に挿入します。
3. [MENU/EXIT] ボタンを押し、[DATA ENTRY] ノブまたは[▲][▼] ボタンでSOUND SETUPを選びます。



SOUND SETUP画面が表示されます。



4. [DATA ENTRY]ノブまたは[▲][▼]ボタンでEXPORT SETUPを選び、[▶] ボタンを押します。

ディスプレイには次のような画面が表示されます。



5. 名前を付けます。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P. 16)をご参照ください。
6. ファンクション・ボタンでOKを選びます。
サウンドセットがエクスポートされ、ディスプレイに確認メッセージが表示されます。

サウンドセットのインポート

あらかじめUSBメモリーに保存しておいたサウンドセットを、VIVO SX7にインポートします。

NOTE

サウンドセットをインポートすると、インターナル・メモリーにあるサウンドセットはインポートしたサウンドセットに置き換えられます。

外部からインポートしたサウンドセットは、一度削除すると元に戻すことができませんのでご注意ください。元々インターナル・メモリーにあったライブラリーについては、INTERNAL ARCHIVE画面から戻せます。詳細は「サウンド・ライブラリーを追加する」(P. 25)をご参照ください。

1. サウンドセットが保存されているUSBメモリーをUSB端子に接続します。
2. [MENU/EXIT] ボタンを押し、[DATA ENTRY] ノブまたは[▲][▼] ボタンでSOUND SETUPを選びます。



ディスプレイにSOUND SET画面が表示されます。



3. [DATA ENTRY]ノブまたは[▲][▼]ボタンでIMPORT SETUPを選び、[▶] ボタンを押します。

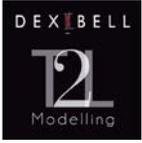
ディスプレイに、USBメモリー内のサウンドセットが表示されます。



4. [DATA ENTRY]ノブまたは[▲][▼]ボタンでインポートするサウンドセットを選びます
5. ファンクション・ボタンでIMPORTを選びます。
サウンドセットがインポートされ、ディスプレイに確認メッセージが表示されます。

14 音色をカスタマイズする (T2L)

T2L-Modelling



T2Lモデリングとは、全てのDexibellブランドの製品に搭載されている、革新的な技術です。

T2Lモデリングは、楽器が持つ様々な特性をシミュレートするための、多くのアルゴリズムを搭載しています。

ダンパー・オフ (高音のダンパーなし)

アコースティック・ピアノと同様、高域の18鍵分はダンパーがありません。そのため、鍵盤を放したときに音が自然に伸びやかに響きます。

これらの高域18鍵をスタッカートで演奏した場合、音が消えるまでの長さは、ダンパーがある音域の音よりも長くなります。



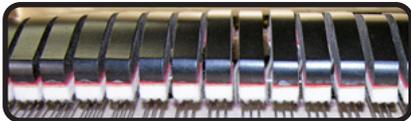
FPシミュレーション (フォルテペダル・マルチアクション・シミュレーション)

ダンパーペダルが持つ、次の特徴をシミュレートしています。

A) ダンパーペダルを押すと、ダンパーが弦から離れたとき生じるフェルトのダンパー摩擦音がします。このノイズをシミュレートし、付加しています (ダンパー摩擦音)。

B) ダンパーペダルを押すと、ダンパーが上がることでより全ての弦が自由になって振動します。それにより共鳴音が発生し、音の響きが豊かになります (弦の共鳴)。ダンパーペダルを使うと、ただ音を伸ばしただけよりも、この弦の共鳴によって豊かな響きが生まれます。VIVO SX7はこの響きをシミュレートしています。

C) アコースティック・ピアノと同様に、ダンパーペダルを離したときに生じる、ダンパーが降りる機械的ノイズをシミュレートしています (サスティンペダル機械ノイズ)。



(A)、(B) ダンパーペダルが押されると、フェルトダンパーが上がります。



(C) ダンパーペダルを離すと、フェルト・ダンパーは弦に触れた状態になります。

SP-シミュレーション (ソフトペダル・シミュレーション)

ソフトペダルは、音の音量と音色を変化させます。アコースティック・ピアノのソフトペダルの動きをシミュレートしています。



ソフト・ペダル

T2L パラメーター

VIVO SX7では、ピアノ音色を構成する様々な要素のパラメーターを編集することで、ピアノ音色の音質を好みに応じてカスタマイズできます。

以下は、ピアノ音色を特徴付けているいくつかのパラメーターについての詳しい説明です。

Hammer Noise (キー・オン時のインパルス・ノイズ)



ピアノの鍵盤を弾くと、弦にハンマーが当たったときの衝撃音 (ハンマー・ノイズ) が音のアタックに含まれます。このノイズがピアノ本体の共鳴によって響きます。

このパラメータでは、ハンマー・ノイズの量を調節します。

パラメーター	設定値
Hammer Noise	-64 ~ 0 ~ +63

Key Off Noise (離鍵時のメカニカル・ノイズ)

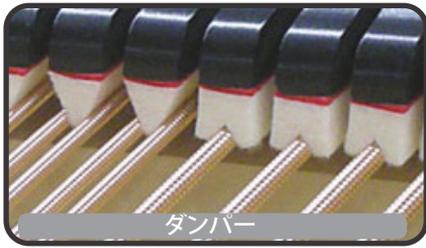
鍵盤を離すと、離すスピードに応じた機械的なノイズ (キーオフ・ノイズ) が発生します。

このパラメーターではキーオフ・ノイズの量を調節します。

パラメーター	設定値
Key Off Noise	-64 ~ 0 ~ +63

Damper Noise (ダンパー・ノイズ)

ダンパーペダルをオン/オフしたときに生じる、ダンパーが弦から離れたり弦に触れたりする摩擦音 (ダンパー・ノイズ) を調節します。



パラメーター	設定値
Damper Noise	-64 ~ 0 ~ +63

Strings Reso (弦の共鳴音)

アコースティック・ピアノと同様に、いくつかの鍵盤を弾いた状態で他の音をスタaccatoで演奏すると、弾かれている音のダンパーが解放された状態のため、それらの弦の共鳴音(ストリングス・レゾナンス)が鳴ります。これにより、多くの倍音が加わって、音の響きが豊かになります。



パラメーター	設定値
String Reso	-64 ~ 0 ~ +63

Damper Reso (ダンパー・レゾナンス)

ダンパーペダルを踏んだときに、全てのダンパーが上がることにより、解放された弦が振動して生じるノイズです。

パラメーター	設定値
Damper Reso	-64 ~ 0 ~ +63

Cabinet Reso (Wurlly, Ac. Guitar, Harp 用)

キャビネットの共振(キャビネット・レゾナンス)を調節します。

パラメーター	設定値
Cabinet Reso	-64 ~ 0 ~ +63

Bell (Electric Piano 用)

1970年代に人気を博したエレクトリック・ピアノの、特徴的なベル音の音量を調節します。

パラメーター	設定値
Bell	-64 ~ 0 ~ +63

Click (Vintage Organ 用)

ビンテージ・オルガン音色の特徴である、鍵盤を弾いた時のクリック音を調節します。

クリック音はオルガンの鍵盤が接点に触れたときに生じる電気ノイズです。当初は欠陥と考えられており、このノイズを取り去るために様々な努力がされましたが、成功しませんでした。そのうち、逆にこのノイズがロックを初め、近年のミュージシャンにとって、オルガン・サウンドを特徴づける音となりました。

パラメーター	設定値
Click	-64 ~ 0 ~ +63

Growl (Electric Piano 用)

フェイズ・アタックの典型的な歪みで、うなるような効果をもたらします。このパラメーターで効果を調節します。

パラメーター	設定値
Growl	-64 ~ 0 ~ +63

Off Noise (Clavinet, Harpsy, Church Organ, E. Piano, Fingered Bass 用)

一部の楽器で鍵盤を離れたとき生じる、キーオフ・ノイズの音量を調節します。

パラメーター	設定値
Off Noise	-64 ~ 0 ~ +63

Percussion (Vintage Organ 用)

オルガンのアタックに付加する音で、ポップオルガンのキークリック音とは異なります。パーカッションは、オルガンでハーブや木琴、マリンバなどのようなパーカッション音を出すために作られました。

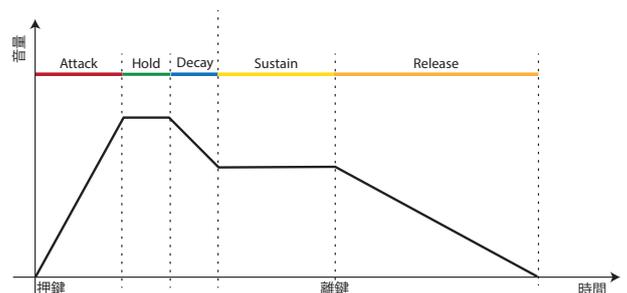
このパラメーターでは、パーカッションの音量を調節します。

パラメーター	設定値
Percission	-64 ~ 0 ~ +63

Attack、Hold、Decay、Sustain、Release

音のエンベロープを調節します。

たとえばオルガンは、鍵盤を押すと一定の音量で音が鳴り、鍵盤を離すとすぐに音が消えます。一方ギターは、弦を弾いた直後に音量が最大になり、その後すぐに減衰します。このように、楽器による音の鳴り方をこのパラメーターで調節します。



音色をカスタマイズする (T2L)

パラメーター	設定値
Attack	-64 ~ 0 ~ +63
Hold	
Decay	
Sustain	
Release	

Ride

Ac. Bass&Ride音色に含まれるライド・シンバルの音量を調節します。

パラメーター	設定値
Ride	-64 ~ 0 ~ +63

Velocity Compad

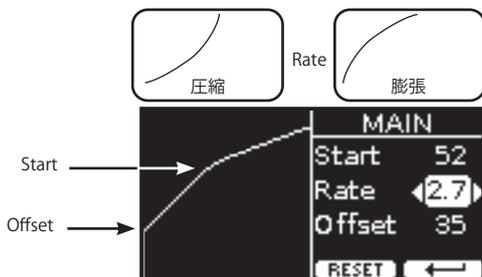
音色ごとにペロシティを調節できます。

例えばピアノ音色のペロシティは変化をつけやすく、ストリングスやパッド音色のペロシティは変化を付けにくい設定をすることができます。



パラメーター	設定値	説明
Start	0~127	ペロシティ・カーブの編集開始点で、以下のRateの影響を受け始める地点です。
Rate	0.1~8.0	カーブの圧縮／膨張係数です。
Offset	0~127	ペロシティの最低値を設定します。

次の例では、開始点が52に設定され、「オフセット」が値35から始まり、レートが2.7に設定されていることを示しています。



初期値に戻すには、ファンクション・ボタンでRESETを選びます。

音色のカスタマイズ

内蔵音色のパラメーターを好みに合わせて編集し、音をカスタマイズできます。

1. カスタマイズする音色のパートを選びます。
2. [MENU/EXIT] ボタンを押し、[DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンでT2L EDITORを選びます。



3. [▶] ボタンを押します。

T2L EDITOR画面に入り、ディスプレイに次のような画面が表示されます。



4. 手順1で選んだ、変更する音色のパートを選びます。
ディスプレイに編集できるパラメーターが表示されます。



上図は編集する音色にVIVO Grand pianoが選ばれている例です。

5. [▲] [▼] ボタンで編集するパラメーターを選びます。
6. [DATA ENTRY] ノブまたは [◀] [▶] ボタンで設定値を選びます。

MEMO

他のパートの音を編集するには、ファンクション・ボタンでPART 2またはPART 3を選びます。

変更を保存する

変更した設定をメモリーに保存できます。詳細は「メモリーとメモリーセット」(P. 33) をご参照ください。

15 その他の機能

マスター・イコライザー

イコライザーを使用すると、音の周波数帯域ごとに音をブーストしたり、レベルを下げたりできます。マスター EQパラメーターを調整することで、接続した再生システムやヘッドフォン、または外部スピーカーシステムなど、音を出す環境に応じた最適な再生音を実現できます。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押し、EFFECTS、MASTER EQの順に選びます。MASTER EQ編集画面に入ります。



2. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンで編集するパラメーターを選び、[◀] [▶] ボタンで値を設定します。

パラメーター	設定値	説明
High Gain	-12~0+12 dB	高周波数帯域の値を調節します。 +の値を設定すると高域が持ち上がり、-の値を設定すると高域をカットします。
Mid Freq	200~8000 Hz	中域のカットオフ周波数を設定します。
Mid Gain	-12~0+12 dB	中周波数帯域の値を調節します。 +の値を設定すると中域が持ち上がり、-の値を設定すると中域をカットします。
Low Gain	-12~0+12 dB	低周波数帯域の値を調節します。 +の値を設定すると低域が持ち上がり、-の値を設定すると低域をカットします。

プリセットのマスター EQを選ぶ

VIVO SX7 には予めいくつかのEQパターンが内蔵されています。この中から好みのプリセットを選び、その設定を元にカスタマイズしてユーザーエリアに保存することができます。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押し、EFFECTS、MASTER EQの順に選びます。MASTER EQ編集画面に入ります。
2. ファンクション・ボタンでPRESETを選びます。



3. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンでプリセットを選びます。
4. ファンクション・ボタンでSELECTを選びます。プリセットの設定がロードされ、EQアイコンが反転表示になります。

ユーザー・プリセットに保存する

パラメーターを編集した状態を保存できます。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押し、EFFECTS、MASTER EQの順に選びます。MASTER EQ編集画面に入ります。
2. ファンクション・ボタンでSAVEを選びます。



3. 保存するプリセットに名前を付けます。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P. 16)をご参照ください。
4. ファンクション・ボタンでWRITEを選びます。
プリセットが保存され、ディスプレイに確認メッセージが表示されます。

データのバックアップ

コンテンツ、音色リスト、各種設定をUSBメモリーにバックアップしたり、バックアップしたデータをVIVO SX7に戻すことができます。

VIVO SX7を修理に出す際は、事前にこの方法でバックアップを取ることをお勧めします。

データをUSBメモリーにバックアップする

1. バックアップ・データを保存するUSBメモリーを接続します。
2. [MENU/EXIT] ボタンを押し、BACKUPを選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



3. EXPORT BACKUPを選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



4. バックアップデータに名前を付けます。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P. 16)をご参照ください。

5. ファンクション・ボタンでOKを選びます。
すべてのデータがUSBメモリーに保存されます。

バックアップされるのは次のデータです。

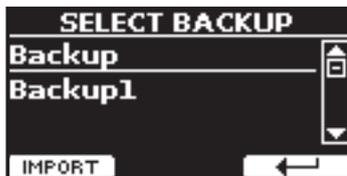
バックアップ・データ
Global Parameters
Master Eq User Parameters
Memory Parameters
Memory Set Parameters
MIDI Set User Parameters
Temperament User Scale Parameters
Sound Library List

バックアップ・データを戻す

1. バックアップ・データのついたUSBメモリーを接続します。
2. [MENU/EXIT] ボタンを押し、BACKUPを選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



3. IMPORT BACKUPを選びます。
USBメモリー内にあるバックアップ・データがディスプレイに表示されません。



4. [▲][▼] ボタンでVIVO SX7に戻すバックアップ・データを選びます。
5. ファンクション・ボタンでIMPORTを選びます。
ディスプレイに次の画面が表示されます。



6. ファンクション・ボタンでYESを選びます。
バックアップ・データの内容がVIVO SX7に反映されます。

工場出荷時の状態に戻す (Factory Reset)

VIVO SX7の設定を工場出荷時の状態に戻します。

WARNING

この操作を行うと、VIVO SX7をお買い上げ後に変更した設定や、録音したデータは全て失われます。この操作の前に、USBメモリーにバックアップを取ることをお勧めします。詳細は「データをUSBメモリーにバックアップする」(P.31)をご参照ください。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押し、[▲][▼] ボタンでFACTORY RESETを選び、[▶] ボタンを押します。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



2. ファンクション・ボタンでYESを選びます。
VIVO SX7が初期設定に戻り、ディスプレイにCompleteと表示されます。

音色を初期化する

すべての音色情報を工場出荷時の状態に戻します。

1. [MENU/EXIT] ボタンを押し、[▲][▼] ボタンでFACTORY SOUNDを選び、[▶] ボタンを押します。

ディスプレイに次のような画面が表示されます。



2. ファンクション・ボタンでYESを選びます。
サウンド・ライブラリが初期化され、ディスプレイにCompleteと表示されます。
音色を初期化しない場合は、ファンクション・ボタンでNOを選びます。

16 メモリーとメモリーセット

VIVO SX7には、VIVO SX7で編集したほぼすべての設定値を保存できる、メモリーがあります。

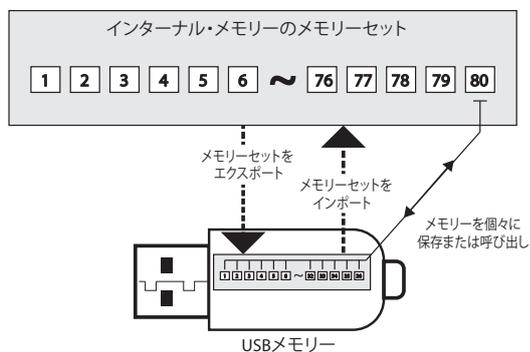
あらかじめ保存したメモリーを呼び出すことで、演奏中にメニュー画面から機能呼び出ししたり、設定を変更したりすることなく、すぐに好みの設定を呼び出すことができます。

お買い上げ時には80個のプリセット・メモリーが入っていますが、これらのプリセット・メモリーを編集し、上書きすることもできます。

メモリーとメモリー構造

作成したメモリーセットは、インターナル・メモリーまたはUSBメモリーに保存できます。

これにより、用途に応じた設定を複数用意することができます。



インターナル・メモリーに設定を保存する

1. 保存する設定をおこないます。
詳細は「ファンクション・メニュー」(P. 38) をご参照ください。
2. ディスプレイに次のような画面が表示されるまで、[MEMORY/WRITE] ボタンを押し続けます。



[MEMORY/WRITE] ボタンが点灯し、ディスプレイにインターナル・メモリーの内容が表示されます。

MEMO

[MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY、WRITEの順に選ぶことでも同じ画面に入ります。

3. [DATA ENTRY] ノブまたは[▲][▼] ボタンで置き換えるメモリーを選びます。
4. ファンクション・ボタンでSAVEを選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



5. メモリーに名前を付けます。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P. 16) をご参照ください。
6. ファンクション・ボタンでOKを選びます。
設定がインターナル・メモリーに保存され、ディスプレイにインターナル・メモリーの一覧が表示されます。



インターナル・メモリーから設定を呼び出す

1. [MEMORY/WRITE] ボタンを押します。
[MEMORY/WRITE] ボタンが点灯し、ディスプレイにインターナル・メモリーの内容が表示されます。



MEMO

[MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY、RECALLの順に選ぶことでも、同じ画面に入ります。

2. [DATA ENTRY] ノブまたは[▲][▼] ボタンで呼び出すメモリーを選びます。
3. ファンクション・ボタンでRECALLを選びます。
選んだメモリーセットが呼び出され、ディスプレイが次のような表示に変わります。



USBメモリーに設定を保存する

1. USBメモリーを接続します。
2. VIVO SX7を設定します。
3. ディスプレイに次のような画面が表示されるまで、[MEMORY/WRITE] ボタンを押し続けます。



インターナル・メモリーの内容が表示されます。

MEMO

[MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY、WRITEの順で選んでも同じ画面に入ります。

4. ファンクション・ボタンでUSBを選びます。

ディスプレイにUSBメモリーの中のフォルダとファイルが表示されます。



以下の方法で保存できます。

- すでにあるメモリーセットに上書きする
- 新規メモリーセットに保存する

すでにあるメモリーセットに上書きする

1. [▲][▼] ボタンでUSBメモリー内にあるメモリーセット・ファイルを選びます。

アイコン	メモリーセット・ファイルの拡張子
	.rif

ファンクション・ボタンでOPENを選ぶと、選んでいるフォルダを開きます。
← を選ぶと、ひとつ上の階層に戻ります。

2. ファンクション・ボタンでOPENを選び、メモリーセット・ファイルを呼び出します。

ディスプレイにメモリー内のメモリーセット・ファイルが表示されます。



3. [▲][▼] ボタンで置き換えるメモリーを選びます。

4. ファンクション・ボタンでSAVEを選びます。

ディスプレイに次のような画面が表示されます。



5. 必要に応じてメモリーの名前を変更します。

詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.16) をご参照ください。

6. ファンクション・ボタンでOKを選びます。

メモリーが上書き保存され、ディスプレイに次のような画面が表示されます。



新規メモリーセットに保存する

1. ファンクション・ボタンでNEW SETを選び、空のファイルを作ります。 空のファイルが作られ、メモリーセットの仮の名前が表示されます。

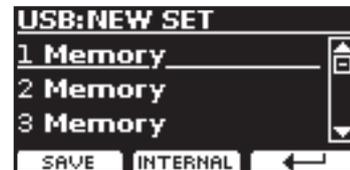


2. メモリーセット・ファイルに名前を付けます。

詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.16) をご参照ください。

3. ファンクション・ボタンでOKを選び、名前を確定します。

ディスプレイに次のような画面が表示されます。



4. [▲][▼] ボタンで、メモリーを保存する番号を選びます。

5. ファンクション・ボタンでSAVEを選びます。

ディスプレイに次のような画面が表示されます。



仮の名前が表示されます。

6. メモリーに名前を付けます。

詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.16) をご参照ください。

7. ファンクション・ボタンでOKを選びます。

メモリーが保存され、ディスプレイに次のような画面が表示されます。



USBメモリーから設定を呼び出す

- メモリーセット・ファイルが入ったUSBメモリーをVIVO SX7に接続します。
メイン画面にUSBのアイコンが表示されます。
- [MEMORY/WRITE] ボタンを押します。
ボタンが点灯し、ディスプレイにインターナル・メモリーの内容が表示されます。



MEMO

[MENU/EXIT] ボタンを押して、MEMORY、RECALLの順に選んでも同様の画面に入ります。

- ファンクション・ボタンでUSBを選びます。
ディスプレイに、USBメモリー内のフォルダやファイルが表示されます。



- [▲][▼] ボタンを使って設定ファイルを選びます。

アイコン	メモリーセット・ファイルの拡張子
	.rif

ファンクション・ボタンでOPENを選ぶと、フォルダを開きます。← を選ぶと、ひとつ上の階層に戻ります。

- ファンクション・ボタンでOPENを選び、メモリーセット・ファイルを開きます。
ディスプレイにメモリーセット・ファイルの内容が表示されます。



- [▲][▼] ボタンで呼び出すメモリーを選びます。
- ファンクション・ボタンでRECALLを選びます。
メモリーが呼び出され、呼び出されたメモリーの番号が白黒反転します。



MEMO

ファンクション・ボタンでINTERNALを選ぶと、インターナル・メモリーの内容を表示します。

メモリーの名前を書き換える

メモリーの名前を書き換えます。

- [MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY、RENAMEの順に選びます。
ディスプレイに次のような画面が表示されます。



- [▲][▼] で、名前を書き換えるメモリーを選びます。
- ファンクション・ボタンでRENAMEを選びます。
ディスプレイの表示が次のようになります。



- [▲][▼] ボタンと[◀][▶] ボタンで名前をつけます。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.16)をご参照ください。
- ファンクション・ボタンでOKを選びます。
メモリーの名前が書き換わり、ディスプレイにインターナル・メモリーの内容が表示されます。



USBメモリーにメモリーセットをエクスポートする

各イベント用にメモリーセットを作成し、必要な時にインポートするのに便利です。この機能を使用して、内部メモリーをバックアップすることもできます。

- USBメモリーをVIVO SX7に接続します。
USBアイコンがメイン画面に表示されます。
- [MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY、EXPORT SETの順に選びます。



ディスプレイにUSBメモリー内のフォルダやファイル名が表示されます。



- [▲][▼] ボタンでフォルダを選びます。
ファンクション・ボタンでOPENを選ぶと、選んでいるフォルダを開きます。
← を選ぶとひとつ上の階層に戻ります。
- ファンクション・ボタンでEXPORTを選びます。
ディスプレイの表示が次のようになります。



仮の名前が表示されます。

- 名前を変更します。
詳細は「データやファイルに名前をつける」(P.16)をご参照ください。
- ファンクション・ボタンでOKを選びます。
データがエクスポートされ、ディスプレイに確認メッセージが表示されません。

NOTE

USBメモリーを安全に取り外すために、USBメモリーをUSB端子から取り外す前には必ず「USB REMOVE」を行ってください。詳細は「USBメモリーを安全に取り外す」(P.13)をご参照ください。

USBメモリーからメモリーセットをインポートする

USBメモリーにあるメモリーセットを、VIVO SX7にインポートします。

- メモリーセットが入ったUSBメモリーを接続します。
ディスプレイに、USBアイコンが表示されます。
- [MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY→IMPORT SETの順に選びます。
ディスプレイにUSBメモリーの内容が表示されます。



- [▲][▼] ボタンで、インポートするメモリーセット・ファイルを選びます



ファンクション・ボタンでOPENを選ぶと、選んでいるフォルダを開きます。
← を選ぶとひとつ上の階層に戻ります。

- ファンクション・ボタンでIMPORTを選びます。
メモリーセット・ファイルがインポートされ、ディスプレイに確認メッセージが表示されます。

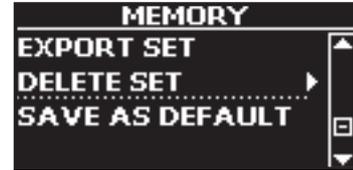
NOTE

USBメモリーを安全に取り外すために、USBメモリーをUSB端子から取り外す前には必ず「USB REMOVE」を行ってください。詳細は「USBメモリーを安全に取り外す」(P.13)をご参照ください。

メモリーセットを削除する

USBメモリー内のメモリーセットを削除します。

- [MENU] ボタンを押し、MEMORY、DELETE SETの順に選びます。



ディスプレイに、接続したUSBメモリー内にある、ファイルとフォルダーのリストが表示されます。



- [DATA ENTRY] ノブまたは [▲][▼] ボタンで、削除するメモリーセットにカーソルを合わせます。



- ファンクション・ボタンでDELETEを選びます。
メモリーセットが削除され、ディスプレイに確認メッセージが表示されません。

電源オン時の設定を登録する

VIVO SX7の電源をオンにしたときに、お気に入りの設定を自動的にロードすることができます。

- 各種設定をします。
- [MENU/EXIT] ボタンを押し、MEMORY、SAVE AS DEFAULTの順に選びます。
現在の設定を、電源投入時に反映するかどうかの確認メッセージが表示されます。



- ファンクション・ボタンでYESを選びます。
電源をオンにしたときに現在の設定が反映されます。
NOを選ぶと、この機能から抜けます。

17 オーディオデータと合わせて演奏する

MURERアプリケーションを使うと、アプリでオーディオ・パターンをコントロールしながら、オーディオデータに合わせてVIVO SX7を演奏できます。



X MURE® は Dexibell® のアプリケーション・ソフトウェア製品です。

X MUREとは

- X-MUREはiOSデバイスで動作するアプリケーション・ソフトです。
- オーディオ・トラックをリアルタイムで編集できる世界初のアルゴリズムHarmony Poly Fragmentorを搭載するX MUREを使って、iOSデバイスの画面を操作し、USB接続した楽器で音楽を再生できます。
- X MUREは音源を必要としない、仮想楽器もしくは本物の楽器の音を基にしたスタンダードMIDIファイルです。

X MUREでできること

- VIVO SX7のライブ演奏で、X MUREオーディオ・パターンをコントロールします。
- 様々な音楽ジャンルに曲をアレンジしたり、新しく曲を作ることができます。

X MUREを使うために必要なもの

- VIVO SX7
- Lightning - USBカメラアダプター (コネクタはApple Inc.社製のものを使用)
- USBケーブル (タイプAオス-タイプBオス)
- オーディオケーブル (3.5 mmプラグ)
- X MUREアプリ (App Storeよりダウンロードしてください)



X MUREアプリを使って演奏する

1. VIVO SX7とiOSデバイスの電源をオンにします。
2. iOSデバイスでX MUREのアイコンをタッチし、アプリを起動します。いくつかのボタンが表示されます。



3. 「Dexibell VIVO」アイコンをタッチします。アプリで次のような画面が表示されます。



4. 鍵盤を弾いて、X MUREをコントロールするパートを決定します。
5. X MUREで再生するオーディオ・パターンを選びます。
6. X MUREアプリでPlayアイコンをタッチします。選んだオーディオ・パターンが再生されます。

MEMO

オーディオのスタート/ストップに、ペダルを使うこともできます。詳細は「CONTROL」(P.40)をご参照ください。

7. 鍵盤でコードを弾きます。弾いたコードに応じてオーディオ・パターンが再生されます。
8. X MUREのA、B、C、Dアイコンをタッチすると、別のパターンを選べます。

MEMO

別のオーディオ・パターンを、ペダルを使って選ぶこともできます。詳細は「CONTROL」(P.40)をご参照ください。

9. X MUREの1、2、3、4アイコンをタッチすると、別のドラム・パターンを選べます。

MEMO

別のドラム・パターンを、ペダルを使って選ぶこともできます。詳細は「CONTROL」(P.40)をご参照ください。

モバイル機器と接続する



18 ファンクション・メニュー

VIVO SX7の [MENU/EXIT] ボタンからは、様々な機能やパラメーターにアクセスできます。

基本操作

1. [MENU/EXIT] ボタンを押します。

ディスプレイの表示が次のように変わります。



2. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンで編集するファンクション・グループを選びます。

3. [▶] ボタンを押して、手順2で選んだグループに入ります。

パラメーターの選び方については「カーソルの操作とパラメーター値の設定」(P. 16) もご参照ください。

次の機能やパラメーターを編集できます。

ファンクション・グループ

Level	21
Panpot	21
Octave.....	21
Mute	21
Coarse Tune	21
Fine Tune	21
Note Low	21
Note High.....	21
Part 1, Part 2, Part 3.....	22
Status	22
Channel	22
Shift.....	22
Modulation.....	22
Volume	22
Panpot	22
Expression.....	22
Reverb.....	22
Chorus.....	22
Hold	22
Sostenuto.....	22
Soft.....	22
PG (Program Change)	22
PB (Pitch Bender).....	22
Main, Coupled, Lower.....	22
Status	22
Channel	22
Modulation.....	22
Volume	22
Panpot	22
Expression.....	22
Reverb.....	22
Chorus.....	22
Hold	22
Sostenuto.....	22
Soft.....	22
PG (Program Change)	22
PB (Pitch Bender).....	22

SOUND LIBRARY Functions	39
SOUND SETUP Functions	39
SETTING Parameters Group	39
PART1, PART2, PART3	39
TRANPOSE.....	39
VELOCITY	39
T2L EDITOR	39
EFFECTS	39
PART1 FX, PART2 FX, PART3 FX.....	40
REVERB	40
MASTER EQ	40
CONTROL	40
DAMPER PEDAL.....	40
Part 1.....	40
Part 2.....	40
Part 3.....	40
PEDAL ASSIGN	40
Funct.....	40
Part 1.....	40
Part 2.....	40
Part 3.....	40
EXPRESSION PEDAL.....	40
Funct.....	40
Part 1.....	40
Part 2.....	40
Part 3.....	40
TUNING	40
MASTER TUNE	41
TEMPERAMENT.....	41
Equal Flat.....	41
Equal Stretch (初期値).....	41
VIVO Stretch.....	41
Vallotti	41
Just Major	41
Pythagorean	41
Mean-Tone.....	41
Werckmeister III	41
Kimberger III.....	41
User 1, User 2, User 3	41
MEMORY	42
USB REMOVE	42
USB AUDIO.....	42
MIDI	42
RECEPTION	42
Memory	42
Status	42
Channel	42
TRANSMISSION	43
Memory	43
Status	43
Channel	43
MIDI SET	43
SAVE MIDI SET	43
GLOBAL.....	43
Auto OFF	43
Pedal.....	43
FACTORY RESET	43
FACTORY SOUND.....	43
BACKUP	43
VERSION INFO.....	43

NOTE

VIVO SX7で設定したパラメーターは、2種類のメモリー領域に保存されます。パラメーターが保存される領域は、次のアイコンによって区別できます。

アイコン	説明
	<p>INTERNAL MEMORY</p> <p>インターナル・メモリー（内部メモリー）を表します。パラメーターやパラメーター・グループはVIVO SX7の内部メモリーに保存されます。詳細は「サウンド・ライブラリーを追加する」(P. 25) をご参照ください。</p>
	<p>GLOBAL MEMORY</p> <p>グローバル・メモリーを表します。パラメーターやパラメーター・グループはVIVO SX7のグローバル・メモリーに保存されます。グローバル・メモリーの内容は、VIVO SX7の電源をオフにするときに、自動で保存されます。</p>

NOTE

VIVO SX7は正しい方法で電源をオフにしてください。VIVO SX7の電源がオフになる前に、電源アダプターをコンセントから外さないでください。

SOUND LIBRARY Functions

[MENU] ボタン → SOUND LIBRARY

VIVO SX7の内部メモリーにサウンド・ライブラリーをインポートし、演奏の際に使用できます。詳細については、「サウンド・ライブラリー」(P. 24) をご参照ください。

SOUND SETUP Functions

[MENU] ボタン → SOUND SETUP

パフォーマンス用のサウンドセットを準備できます。

例えば、パフォーマンス（演奏）でピアノ音色のみを使う場合、ピアノ音色ひとつをサウンドセットに設定します。そうすることで、VIVO SX7内部メモリーの最大サイズを、ピアノ音色のためだけに使用することができます。

詳細は、「サウンドセット（インポート／エクスポート）」(P. 27) をご参照ください。

SETTING Parameters Group

[MENU] ボタン → SETTING

VIVO SX7の設定に関するパラメーター・グループです。



▶ PART1, PART2, PART3

詳細は、「パートとMIDIの設定」(P. 21) をご参照ください。

▶ TRANSPOSE

VIVO SX7の音程を半音単位でトランスポーズします。

詳細は、「パートごとのトランスポーズ」(P. 21) をご参照ください。

▶ VELOCITY

接続した外部機器から受信するノート情報にはベロシティの情報が含まれています。このベロシティの値は、アコースティック・ピアノの特徴をシミュレートしている各パラメーターと大きく関わっています。

ここでは、ベロシティ・カーブを自由に変更することができます。



- [◀] [▶] ボタンを使ってpp、p、mf、f、ffの中からカスタマイズするポイントを選びます
- [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンで選んだポイントに設定する値を選びます。

カーブ・ポイント	説明
	pp (ピアニッシモ) 最弱音を表します。
	p (ピアノ) 弱音を表します。
	mf (メゾフォルテ) 中ぐらいの強さを表します。
	f (フォルテ) 強音を表します。
	ff (フォルティッシモ) 最強音を表します。

ファンクション・ボタンでRESETを選ぶと、すべての値が初期値に戻ります。ここで設定したベロシティカーブは、自動的にグローバルエリアに保存され、電源をオフにした後も保持されます。

T2L EDITOR

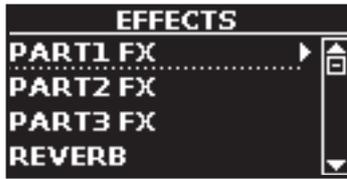
[MENU] ボタン → T2L EDITOR

詳細は、「音色をカスタマイズする (T2L)」(P. 28) をご参照ください。

EFFECTS

[MENU] ボタン → EFFECTS

VIVO SX7には2つのマルチエフェクト (FX-AおよびFX-B) プロセッサーがあり、各パートに設定できます。



▶ PART1 FX, PART2 FX, PART3 FX

VIVO SX7のパートごとのエフェクト・パラメーターの設定画面を表示します。

詳細は、「エフェクトをかける」(P.23)をご参照ください。

▶ REVERB

詳細は「リバーブをかける」(P.23)をご参照ください。

▶ MASTER EQ

詳細は「マスター・イコライザー」(P.31)をご参照ください。

CONTROL



[MENU] ボタン → CONTROL

ペダルに関する設定をおこないます。

VIVO SX7はペダル端子に接続したペダルに、様々な機能を割り当てることができます。詳細は「ペダルについて」(P.12)をご参照ください。

次の図は、コントローラーに機能を設定する画面です。



▶ DAMPER PEDAL



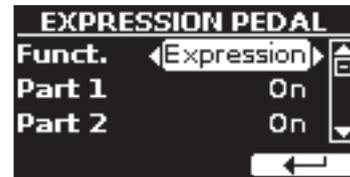
パラメーター	設定値	説明
Part 1	OFF, ON 初期値: ON	OFF : ダンパーペダルを使わないパートに設定します。
Part 2		
Part 3		

▶ PEDAL ASSIGN



パラメーター	設定値	説明
Funct.	OFF	ペダルに機能を割り当てません。
	Sostenuto	ソステヌートペダルを割り当てます(初期値)。
	Soft	ソフトペダルを割り当てます。ソフトペダルを踏んでいる間に演奏した音の音量が下がり、音色がわずかに変化します。
	FXA On-Off	MFX-A、MFX-Bのオン/オフを切り替えます。
	FXB On-Off	
	Memory Prev	ひとつ前、またはひとつ先のメモリーに切り替えます。
	Memory Next	
	Rotary S/L	ロータリーのスピード (Slow/Fast) を切り替えます。
	Part On/Off	キーボード・パートのオン/オフを切り替えます。
	XMure FillUp	XMure® アプリのドラムパターンを、ひとつ前またはひとつ先のパターンに切り替えます。
	XMure FillDw	
	XMure SceneUp	XMure® アプリのシーンを、ひとつ前またはひとつ先のシーンに切り替えます。
	XMure SceneDw	
	XMure Play	XMure® アプリのパターンの再生/停止を切り替えます。
XMure Ending	エンディング・パターンを選びます。	
Part 1	OFF, ON 初期値: ON	OFF : ペダルを使わないパートに設定します。 ON : そのパートに対して、ペダルに割り当てた機能が有効になります。
Part 2		
Part 3		

▶ EXPRESSION PEDAL



パラメーター	設定値	説明
Funct.	Expression, Modulation, FX-Manual	Expression : エクスプレッションを割り当てます。
		Modulation : モジュレーションを割り当てます。
		FX Manual : エフェクトの Manual パラメーターをコントロールします。詳細は「16: Wah-Wah (ワウワウ)」(P.46) および「17: Cut Filter (カット・フィルター)」(P.46)をご参照ください。
Part 1	OFF, ON 初期値: ON	Off : エクスプレッションペダルを踏んでも効果がかかりません。 On : エクスプレッションペダルの効果がかかります。
Part 2		
Part 3		

TUNING

[MENU] ボタン → TUNING



▶ MASTER TUNE



設定値	説明
415.40 Hz~ 440.00 Hz~ 466.10 Hz	A4音の周波数を設定します。
440.00 Hz	440.00 Hzと442.00 Hzはファンクション・ボタンで選ぶことができます。
442.00 Hz	

楽器は一般的にA 440にチューニングされます。

1700年代後半から1800年代前半の標準ピッチにはA 415が使われていましたが、その後、標準ピッチは徐々に高くなり、1800年代後半にはA 435が使われるようになりました。そのような経緯を経て、1900年代初期にA 440が標準規格として採用されました。現在もA 440が標準ですが、一部のオーケストラ、特にヨーロッパでは、A 444などのより高いピッチを標準として使用しています。

▶ TEMPERAMENT



現代の楽器は、隣り合う音同士がすべて同じ音程差でチューニングされています (Equal Flat) が、音楽ジャンルによっては異なる音律が使われることがあります。

設定値	説明
Equal Flat	オクターブを、12の等しい間隔に分けています。
Equal Stretch (初期値)	Equal Flatを元にしていますが、オクターブを伸ばすことによって、平均律で生じる完全5度の不協和音を回避しています。
VIVO Stretch	Equal Stretchに近いですが、よりピアノ用に調整された音階です。
Vallotti	今日のバロック音楽で使われる音階です。
Just Major	純正律です。#やbを使わず、転調や移調しない曲に適しています。
Pythagorean	古代ギリシャで発明された音律です。3度はやや不完全和音ですが、メロディは平均律よりきれいな響きます。
Mean-Tone	3度の純正を保つために、完全5度を純正律より狭めています。
Werckmeister III	上記のMean-Tone (中全音律) とピタゴラスを組み合わせた音律で、移調しても演奏できます。
Kimberger III	純正律と中全音律を改善したもので、移調ができ、すべての調で演奏できます。
User 1, User 2, User 3	ユーザーによって作られた音律を保存します。

1. 音律を選びます。
2. ファンクション・ボタンでRECALLを選びます。
選んだ音律が反映されます。

Equal Flat, Equal Stretch, Vivo Stretch の編集

Equal Flat、Equal Stretch、Vivo Stretchを選んだ場合は、音律を細かく設定できます。

1. ファンクション・ボタンでEDITを選びます。



上図はEqual Stretch scaleを選んだ場合の例です。

2. [▲] [▼] ボタンまたは鍵盤を弾いて、編集する音を選びます。
3. [DATA ENTRY] ノブまたは [◀] [▶] ボタンで音程を設定します。
4. ファンクション・ボタンで [HERTZ/CENT] を選び、1/100セントごとに音程を設定します。



設定値	説明
-99.99 ~ 0 ~ +99.99 (セント)	音程を設定します。

5. ファンクション・ボタンでWRITEを選び、編集した音律を保存します。

ディスプレイに次のような画面が表示されます。



6. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンで保存する番号を選びます。
7. ファンクション・ボタンでWRITEを選び、保存します。
確認メッセージが表示されます。

平均律 (equal temperament) 以外を選んだ時

1. 平均律以外 (Pythagorean, Mean-Tone, Werckmeister III, Kimberger III and the Just Major and Minorなど) の音律を選んだ場合、ルート音を指定できます。

下図の部分に ROOT NOTEのボタンが表示されます。



- ファンクション・ボタンでROOT NOTEを選びます。
ルート音を指定する画面になります。



- ルート音を選びます。

設定値	説明
C, C#, D, Eb, E, F, F#, G, Ab, A, Bb, B	音階のルート音

- ファンクション・ボタンで←を選び、設定画面を抜けます。

USER scalesを選んだ場合

下図の部分にEDITのボタンが表示されます。



- ファンクション・ボタンでEDITを選びます。



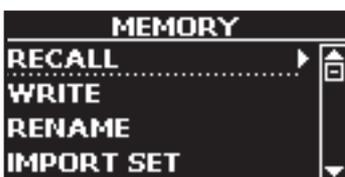
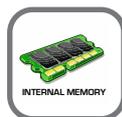
- [▲] [▼] ボタンまたは鍵盤を弾いて、編集する音を選びます。
- [DATA ENTRY] ノブまたは[◀] [▶] ボタンで音程を設定します。
- ファンクション・ボタンで[HERTZ/CENT]を選び、1/100セントごとに音程を設定します。

設定値	説明
-99.99 ~ 0 ~ +99.99 (cent)	チューニング値

- ファンクション・ボタンでWRITEを選び、編集した音律を保存します。
ディスプレイに確認メッセージが表示されます。
- ファンクション・ボタンで←を選び、編集画面から抜けます。

MEMORY

[MENU] ボタン → MEMORY



詳細は「メモリーとメモリーセット」(P. 33) をご参照ください。

USB REMOVE

[MENU] ボタン → USB REMOVE

USBメモリーを安全に取り外すための操作です。USBメモリーをUSB端子から取り外す前には必ず「USB REMOVE」を行ってください。詳細は「USBメモリーを安全に取り外す」(P. 13) をご参照ください。

USB AUDIO

[MENU] ボタン → USB AUDIO



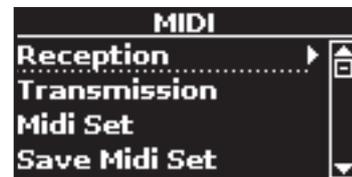
詳細は「USBオーディオ機能」(P. 18) をご参照ください。

MIDI

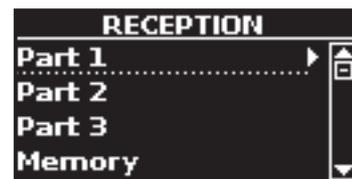
[MENU] ボタン → MIDI



外部シーケンサー・ソフトをはじめ、外部MIDI機器とVIVO SX7の間でMIDIデータの送受信をするための、MIDIに関するパラメーターを設定します。



▶ RECEPTION



各パートのMIDI受信パラメーターを設定します。また、受信したMIDIメッセージをメモリーに送るかどうかを設定します。

Part1、Part2、Part3についての詳細は、「MIDI受信」(P. 21) をご参照ください。

Memoryを選ぶと、以下のような画面が表示されます。



Memory		
パラメーター	設定値	説明
Status	OFF, ON 初期値: On	MemoryパートでMIDIメッセージを受信する場合はONに設定します。
Channel	1 ~ 16 初期値: 15	MemoryパートのMIDI受信チャンネルを設定します。

▶ TRANSMISSION



各パートのMIDI送信パラメーターを設定します。また、メモリーコントロールに送信したMIDIメッセージを設定します。

Part1、Part2、Part3についての詳細は、「MIDI送信」(P. 22)をご参照ください。

Memoryを選ぶと、以下のような画面が表示されます。



Memory		
パラメーター	設定値	説明
Status	OFF, ON 初期値: On	メモリーを呼び出す際にMIDI情報を送信するにはONを設定します。詳細は「メモリーとメモリーセット」(P. 33)をご参照ください。
Channel	1 ~ 16 初期値: 15	メモリーパートにMIDI送信するチャンネルを設定します。

▶ MIDI SET

MIDIセットはMIDI設定のためのメモリーで、VIVO SX7は4つのMIDIセットを持っています。

1つ目のMIDIセットのDexibellは読み取り専用で、MIDIの初期設定を復元するためのセットです。

それ以外の3つのセットは、ユーザーのMIDI設定を記憶したり呼び出したりできます。



1. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンでMIDIセットを選び、ファンクション・ボタンでRECALLを選びます。
2. ファンクション・ボタンでSAVEを選び、SAVE MIDI SET画面に移ります。

▶ SAVE MIDI SET



1. [DATA ENTRY] ノブまたは [▲] [▼] ボタンで保存するMIDIセットを選びます。ファンクション・ボタンでWRITEを選ぶと、設定を保存します。

GLOBAL

[MENU] ボタン → GLOBAL



VIVO SX7全体に関する設定です。

このパラメーターは VIVO SX7のグローバル・メモリーに自動的に保存されます。



パラメーター	設定値	説明
Auto OFF	Off, 5 min, 10 min, 30 min, 2 hours, 4 hours 初期値: 2 hours	VIVO SX7を一定時間操作しなかった場合、電源が自動でオフになるまでの時間を設定します。 Offを設定すると、電源は自動でオフになりません。
Pedal	Global, Memory	Global: ペダルの割り当てをグローバル・エリアに保存します。ペダルの割り当ては呼び出されたメモリーには依存しません。 Memory: ペダルの割り当てをメモリー・エリアに保存します。ペダルの割り当ては、呼び出されたメモリーにより異なります。

FACTORY RESET

[MENU] ボタン → FACTORY RESET

VIVO SX7の設定を工場出荷時の状態に戻します。詳細は「工場出荷時の状態に戻す (Factory Reset)」(P. 32)をご参照ください。

FACTORY SOUND

[MENU] ボタン → FACTORY SOUND

サウンド・ライブラリーを工場出荷時の状態に戻します。詳細は「音色を初期化する」(P. 32)をご参照ください。

BACKUP

[MENU] ボタン → BACKUP

データをバックアップします。詳細は「データのバックアップ」(P. 31)をご参照ください。

VERSION INFO

[MENU] ボタン → VERSION INFO

VIVO SX7のオペレーティング・システムのバージョン情報を表示します。

19 付録

エフェクト・タイプとパラメーター・リスト

1 : Thru (スルー)

エフェクト・プロセッサーをバイパスします。

2 : EP Tremolo (EPトレモロ)

音の振幅を周期的に変調するエフェクトです。エレクトリック・ピアノに効果的です。

パラメーター	設定値	説明
Speed	0.10 ~ 12.50 Hz	変調のスピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果の深さを設定します。

3 : Equalizer (イコライザー)

4バンド・ステレオ・イコライザーです。(low, mid x 2, high)

パラメーター	設定値	説明
Low Freq	40 ~ 400 Hz	低域の周波数を設定します。
Low Gain	-12 ~ 0 ~ +12	低域のゲインを設定します。
High Freq	800 Hz ~ 8KHz	高域の周波数を設定します。
High Gain	-12 ~ 0 ~ +12	高域のゲインを設定します。
Mid1 Freq	200Hz ~ 4 KHz	中域 (Mid1) の周波数を設定します。
Mid1 Gain	-12 ~ 0 ~ +12	中域 (Mid1) のゲインを設定します。
Mid1 Q	0.5 ~ 12.0	ゲイン設定の影響を受ける中域 (Mid1) の幅を調整します。 設定値が大きいくほど、幅が狭まります。
Mid2 Freq	200Hz ~ 4KHz	中域 (Mid2) の周波数を設定します。
Mid2 Gain	-12 ~ 0 ~ +12	中域 (Mid2) のゲインを設定します。
Mid2 Q	0.5 ~ 12.0	ゲイン設定の影響を受ける中域 (Mid1) の幅を調整します。 設定値が大きいくほど、幅が狭まります。

4 : Vibrato (ビブラート)

ピッチを定期的に細かく変化させる効果です。

パラメーター	設定値	説明
Rate	0.10 ~ 12.50 Hz	ピッチ変化のスピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	ピッチ変化の量(強さ)を設定します。

5: Flanger (フランジャー)

音に大きなうねりとピッチの動きを与え、金属的な共鳴効果を生み出します。

パラメーター	設定値	説明
Rate	0.10 ~ 12.50 Hz	変調スピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果の強さを設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。 マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。

パラメーター	設定値	説明
Balance	0 ~ 100	直接音とエフェクト音の音量バランスを調節します。
PreDelay	0 ~ 100 ms	直接音からどれくらい遅れてフランジャーが効き始めるかを設定します。
Phase	0 ~ 180 deg	左右のLFO位相差を10度単位で設定します。音が空間的に広がって聴こえます。

6 : Chorus (コーラス)

直接音に加える入力信号の遅れを調節することで、音に厚みと温かさを加え、LFOの位相を左右で互いにずらすことで、音に広がりを与えます。

パラメーター	設定値	説明
Rate	0.10 ~ 12.50 Hz	変調スピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果をかける強さを設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。 マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。
Balance	0 ~ 100	直接音とエフェクト音の音量バランスを調節します。
PreDelay	0 ~ 100 ms	直接音からどれくらい遅れてコーラスが効き始めるかを設定します。
Phase	0 ~ 180 deg	左右のLFO位相差を10度単位で設定します。

7 : Phaser (フェイザー)

直接音に位相を変えた音を合わせることで、音にうねりを出します。エレクトリック・ピアノの音にかけると効果的です。LFOの位相を左右で互いにずらすことで、音に広がりを与えます。

パラメーター	設定値	説明
Rate	0.10 ~ 12.50 Hz	変調スピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果をかける強さを設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。 マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。
Phase	0 ~ 180 deg	直接音とエフェクト音の音量バランスを調節します。

8 : Reverb (リバーブ)

部屋やホール、スタジアムなど、音響空間に応じた残響をシミュレートします。

パラメーター	設定値	説明
Level	0 ~ 127	エフェクトをかける量を設定します。
Damping	0 ~ 127	カーペット、木材、レンガ、コンクリートなど、音響空間の素材による音の減衰量を調節します。 設定値が大きくなると、高周波減衰量が増えます。
Room Size	0 ~ 127	シミュレートする部屋のサイズを設定します。

パラメーター	設定値	説明
Width	0 ~ 127	リバーブのステレオ幅を設定します。 設定値が大きくなると、ステレオ幅が広がります。
PreDelay	0 ~ 100 ms	直接音からどれくらい遅れてリバーブが効き始めるかを設定します。

9 : Delay (ディレイ)

エコーをシミュレートします。

パラメーター	設定値	説明
Delay L	0 ~ 750 ms	左チャンネルの遅延時間を設定します。
Delay R	0 ~ 750 ms	右チャンネルの遅延時間を設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。 マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。
Wet	0 ~ 100 %	エフェクトがかかった音 (wet) の量を設定します。
Dry	0 ~ 100 %	直接音 (dry) の量を設定します。

10 : Cross Delay (クロス・ディレイ)

高度なステレオ・ディレイの効果が得られます。

各エコー (反射音) は、元となる音の反対側のチャンネルから聴こえます。
例えば左チャンネルのエコーは右から聴こえます。

パラメーター	設定値	説明
Delay L	0 ~ 750 ms	左チャンネルの遅延時間を設定します。
Delay R	0 ~ 750 ms	右チャンネルの遅延時間を設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。 マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。
Wet	0 ~ 100 %	エフェクトがかかった音 (wet) の量を設定します。
Dry	0 ~ 100 %	直接音 (dry) の量を設定します。

11 : Triple Tap Delay (トリプル・タップ・ディレイ)

左、右、中央の3方向にディレイ音を生成します。

パラメーター	設定値	説明
Delay L	0 ~ 750 ms	左チャンネルの遅延時間を設定します。
Delay R	0 ~ 750 ms	右チャンネルの遅延時間を設定します。
Delay C	0 ~ 750 ms	センター (L+R) チャンネルの遅延時間を設定します。
Feedback	-96 ~ +96 %	エフェクトがかかった音をフィードバックする割合を設定します。 マイナスの値を設定すると、フィードバックする音の位相が反転します。
Level L	0 ~ 100	左側ディレイ音の音量を設定します。
Level R	0 ~ 100	右側ディレイ音の音量を設定します。
Level C	0 ~ 100	中央ディレイ音の音量を設定します。
Wet	0 ~ 100 %	エフェクトがかかった音 (wet) の量を設定します。
Dry	0 ~ 100 %	直接音 (dry) の量を設定します。

12 : Rotary (ロータリー)

ロータリー・スピーカーによって作られる特徴的なエフェクトで、音に広がりを与えます。オルガン音色に効果的です。

パラメーター	設定値	説明
Speed	Slow, Fast	スピーカーの回転速度です。
Brake	Off, On	ホイール・ブレーキをコントロールします。 初期値はOffで、この時トーン・ホイールは回転しています。 このパラメーターをOnにすると、トーン・ホイールの回転が徐々に遅くなり、やがて停止します。
Vibrato Sw	Off, On	ビブラートのオン/オフです。
Vibrato Type	V1, C1, V2, C2, V3, C3	ビブラートまたはコーラスのタイプを選びます。 Vはビブラート、Cはコーラスを表します。

13 : Tremolo (トレモロ)

音の振幅を周期的に変調し、トレモロをかけます。

パラメーター	設定値	説明
Speed	0.10 ~ 12.50 Hz	変調のスピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果の深さを設定します。

14 : Tremolo Pan (トレモロ・パン)

通常のトレモロに加え、左右の位相差を設定できます。

パラメーター	設定値	説明
Speed	0.10 ~ 12.50 Hz	変調のスピードを設定します。
Intensity	0 ~ 100	効果の深さを設定します。
Phase	0 ~ 180 deg	左右のLFO位相差を10度単位で設定します。

15 : Overdrive (オーバードライブ)

古い真空管アンプを大音量で鳴らしたときのように、音を歪ませます。ハードロックなどのジャンルで使用されます。

パラメーター	設定値	説明
Drive	1 ~ 100	設定値が大きいくほど歪が大きくなります。
Tone	100 Hz ~ 10.0 KHz	特定の倍音を強調、または低減します。
Level	0 ~ 100	エフェクトの音量を設定します。
Low Freq	80 ~ 400	低音域の周波数を設定します。
Low Gain	-12 ~ 0 ~ +12	低周波数のゲインを設定します。
High Freq	800Hz ~ 8KHz	高音域の周波数を設定します。
High Gain	-12 ~ 0 ~ +12	高周波数のゲインを設定します。

16 : Wah-Wah (ワウワウ)

入力信号の音程と周波数を変えてユニークな音を作り出します。

パラメーター	設定値	説明
Mode	Auto, Manual	Auto: Manual/パラメーターは内部LFOによって自動的にコントロールされます。 Manual: Manual/パラメーターをエクスプレッションペダルまたはWHELL (ホイールを搭載している機器を使う場合)でコントロールします。 このとき、エクスプレッションペダルをFX-MANUAL機能に割り当てます。詳細は「EXPRESSION PEDAL」(P. 40)をご参照ください。
Manual	0 ~ 127	エフェクトの効果がかかる中心周波数を設定します。 このパラメーターはエクスプレッションペダルまたはWHELL (ホイールを搭載している機器を使う場合)でもコントロールできます。このとき、エクスプレッションペダルをFX-MANUAL機能に割り当てます。詳細は「EXPRESSION PEDAL」(P. 40)をご参照ください。
Filter	Low Pass, High Pass, Band Pass, Peak	Low Pass: 低周波数域に効果がかかります。 High Pass: 高周波数域に効果がかかります。 Band Pass: 狭い周波数範囲に効果がかかります。 Peak: 特定の中心周波数に効果がかかります。
Low Freq	100Hz ~ 10.0KHz	低域の周波数を設定します。
High Freq	100Hz ~ 10.0KHz	高域の周波数を設定します。
Low Q	0.5 ~ 10.0	低周波、または高周波帯域の幅を調節します。
Hi Q	0.5 ~ 10.0	高周波、または低周波帯域の幅を調節します。
LFO Rate	0.1Hz ~ 12.50Hz	変調周波数を設定します。
LFO Curve	Linear, Quadratic	LFOカーブのタイプを設定します。
Balance	0% ~ 100%	直接音とエフェクト音のバランスを調節します。
Env Threshold	-40dB ~ 0dB	エンベロープのスレッシュホールド値を設定します。
Env Attack	0ms ~ 250ms	エンベロープのアタックを設定します。
Env Release	0ms ~ 1000ms	エンベロープのリリースを設定します。

17 : Cut Filter (カット・フィルター)

特定の周波数帯域をカット(低減)します。

パラメーター	設定値	説明
Manual	0 ~ 127	エフェクトをかける中心周波数を設定します。 このパラメーターはエクスプレッションペダルまたはWHELL (ホイールを搭載している機器を使う場合)でもコントロールできます。このとき、エクスプレッションペダルをFX-MANUAL機能に割り当てます。詳細は「EXPRESSION PEDAL」(P. 40)をご参照ください。

パラメーター	設定値	説明
Slope	12db/Octave, 24db/Octave	信号をカットする際の傾斜です。1オクターブ当たりの減衰量(デシベル)を選びます。
Type	Low Pass, High Pass, Band Pass, Peak	Low Pass: カットオフ周波数より高い周波数をカットし、低い周波数がフィルタを通過します。 High Pass: カットオフ周波数より低い周波数をカットし、高い周波数がフィルタを通過します。 Band Pass: 特定の帯域の周波数がフィルタを通過します。 Peak: 特定の中心周波数がフィルタを通過します。
Low Freq	100Hz ~ 10.0KHz	低域の周波数を設定します。
High Freq	100Hz ~ 10.0KHz	高域の周波数を設定します。
Low Q	0.5 ~ 10.0	低周波、または高周波帯域の幅を調節します。
Hi Q	0.5 ~ 10.0	高周波、または低周波帯域の幅を調節します。

18 : Compressor (コンプレッサー)

一定の音量レベルを超えた場合に、入力音を圧縮します。

パラメータ	設定値	説明
Threshold	-40dB ~ 0dB	入力信号のスレッシュホールドを設定します。 この値を超える入力信号が圧縮され、この値を下回る入力信号は圧縮しません。
Ratio	1:1 ~ inf:1	圧縮の強度を設定します。 設定値が1:1のとき、コンプレッサーは動きません。 それ以外の値では、出力信号は比率に応じて圧縮されます。 設定値がinf:1のときは、コンプレッサーはブリック・ウォール・リミッターの役割を果たします。入力レベルに関係なく出力レベルはスレッシュホールドを超えません。
Knee Width	0.0 ~ 1.0	設定値を大きくすると、スレッシュホールド・レベル付近での音量変化が緩やかになります。
Attack Time	0ms ~ 250ms	入力信号がスレッシュホールドを超えた後、コンプレッサーがかかるまでの時間を設定します。
Release Time	0ms ~ 1000ms	入力信号がスレッシュホールドを下回った後でも、コンプレッサーがかかり続ける時間を設定します。
Makeup	-24dB ~ -24dB	コンプレッサーをかけた後の信号をどれくらいブーストするかを設定します。
Stereo Link	Off, On	Onに設定すると、ステレオ・モードで動作します。

VIVO SX7 音色リスト

Num.	Name	PC	CC00
PIANO			
0001	VIVO Grand	2	0
0002	Pop Grand	2	1
0003	VIVO Live	2	2
0004	Classic Grand	1	0
0005	VIVO Upright	1	2
0006	Romantic	1	1
0007	Ragtime	4	0
0008	Honky Tonk	4	1
0009	Elec.Grand	3	2
0010	E.Grand Trem	3	3
0011	Rock Piano	3	1
E. PIANO			
0012	Dyno Stage	5	0
0013	Suitcase	5	1
0014	Phaser EP	5	2
0015	Wurly	5	5
0016	Trem.Wurly	5	6
0017	Soft E.Piano	5	3
0018	Bright E.Piano	5	4
0019	FM Full Tines	6	0
0020	FM E.Piano	6	1
PERCUSSIVE			
0021	Cool Clav	8	0
0022	Groovy Clav	8	1
0023	Doctor Clav	8	2
0024	Funky Clav	8	3
0025	Vibraphone	12	0
0026	Celesta	9	0
0027	Xylophone	14	0
0028	Marimba	13	0
0029	Coupled Hps.	7	2
0030	Harpsi 8'	7	0
0031	Harpsi 4'	7	1
0032	Pop Harpsi	7	3
0033	Harp	47	0
ORGAN			
0034	Jazz Organ	18	0
0035	Blues Organ	18	1
0036	R e g g a e Organ	17	0
0037	R&B Organ	17	1
0038	Rock Organ	19	0
0039	Gospel Organ	19	1
0040	Pop Organ	17	2

Num.	Name	PC	CC00
0041	Principal	20	0
0042	Princip&Flute	20	1
0043	Church	20	2
0044	Mixture	20	3
STRINGS			
0045	Slow Strings	50	0
0046	Strings	50	1
0047	Fast Strings	49	0
0048	Strings Ens.	50	2
0049	Orchestra	49	1
0050	Dark Strings	50	3
0051	Strings Pad	51	0
0052	Syn. Strings	51	1
0053	80's Strings	52	0
PAD/CHOIR			
0054	Warm Pad	90	0
0055	Soft Pad	90	1
0056	Square Pad	90	2
0057	Mmh Choir	53	0
0058	Dark Pad	54	0
0059	Classic Choir	53	1
0060	Choir Pad	54	1
0061	Synth Vox	55	0
0062	Space Vox	55	1
BRASS/SYNTH			
0063	Brass Sect.	62	0
0064	Brass Ens.	62	1
0065	Synth Brass	63	0
0066	Poly Brass	63	1
0067	Fanta Bell	101	0
0068	Dexi Heaven	101	1
0069	Poly Synth	91	0
0070	Super Saw	91	1
0071	Fast Synth	91	2
GUITAR/BASS			
0072	Nylon Guitar	25	0
0073	Steel Guitar	26	0
0074	Jazz Guitar	27	0
0075	Overdrive GT.	30	0
0076	Acoustic Bs.	33	0
0077	Fingered Bs.	34	0
0078	Picked Bs.	35	0
0079	Ac.Bass&Ride	33	1
0080	Synth Bass	39	0

20 トラブルシューティング

症状	原因と対策	ページ
電源が勝手にオフになります。	オートパワーオフ機能が設定されています。自動で電源をオフにたくない場合は、オートパワーオフ機能の設定値をOFFに設定してください。	43
電源がオンになりません。	VIVO SX7とACアダプター、電源コードが正しく接続され、コンセントに接続されているか確認してください。 NOTE 付属品以外のACアダプターや電源コードは使用しないでください。誤動作の原因になります。	12
	電源をオフにした直後に電源をオンにしていますか？ 電源をオフにしたあと再び電源をオンにするには、5秒以上の間隔を空けてください。	-
VIVO SX7のOUTPUT端子から音が鳴りません。	VIVO SX7の電源をオンにしましたか？	13
	[VOLUME] ノブが最小になっていませんか？ボリュームを上げてください。	-
	パート・ボリュームの値が小さすぎませんか？パートごとの音量レベルを確認してください	21
	VIVO SX7とMIDIキーボードまたはパソコンを接続していますか？	17
VIVO SX7の受信チャンネルと、接続しているMIDIキーボードまたはパソコンの送信チャンネルの設定は正しいですか？ MIDIチャンネルを正しく設定してください。	17	
VIVO SX7をアンプに接続すると、音量が小さくなります。	抵抗の入った接続ケーブルを使用していませんか？抵抗の入っていない接続ケーブルを使用してください。	-
VIVO SX7のUSB端子に接続した機器の音量が不十分です。	USB AUDIO Inputのレベルが下がっていませんか？レベルを上げてください。	18
	USB AUDIO Outputのレベルが下がっていませんか？レベルを上げてください。	18
楽器のピッチが正しくありません。	「Tuning」または「Temperament」の設定は適切ですか？パラメーターを確認してください。	40
	トランスポーズしていませんか？設定を確認してください。	39
外部アンプからハムノイズが聞こえます。	VIVO SX7と接続した外部アンプまたは外部機器の電源は、VIVO SX7とは別のコンセントに接続していますか？ アンプまたはその他の機器の電源を、VIVO SX7と同じコンセントに接続してください	-
	近くで使用している携帯電話が干渉している可能性があります。携帯電話の電源を切るか、機器から離れた場所で使用してください。	-
VIVO SX7のUSB COMPUTER端子とパソコンを接続したが、VIVO SX7がMIDI情報を受信しない。	VIVO SX7の受信チャンネルと、パソコンの送信チャンネルの設定は正しいですか？ MIDIチャンネルを正しく設定してください。	42
USBメモリーの読み書きができません。	USBメモリーのフォーマットを確認してください。VIVO SX7は、FAT形式でフォーマットされたUSBメモリーに対応しています。お使いのUSBメモリーが他の方法でフォーマットされている場合は、MS-DOS FATとして再フォーマットしてください。	-
USBメモリーに保存できません。	USBメモリーにライトプロテクトがかかっていますか？	-
	USBメモリーに十分な空き容量がありますか？	-

お問い合わせの窓口

本書をご覧いただいても解決できない問題がございましたら、Dirigentカスタマーサポートまでご連絡ください。

なお、サポート・サービスをご利用いただくためには、Dirigentへのユーザー登録が必要です。登録の確認ができない場合、サポート・サービスをご利用いただくことができません。予めご了承ください。

■ Dirigentへのご登録方法：

Dirigentサポートページにアクセスし、Dexibellオンライン登録フォームよりご登録をお願いいたします。

■ Dirigentカスタマーサポート：

電話でお問い合わせの際は、Dirigentへのご登録確認のため、お名前・製品名・製品シリアルナンバーをお伺いいたします。また、メールでのお問い合わせは、Dirigentサポートサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

● 電話番号：03-6264-7818 受付時間：月曜日～金曜日10:30～17:00（弊社特別休業日を除く）

● Dirigentサポートサイト：<https://dirigent.jp/support/>

21 技術仕様

ITEMS		VIVO SX7
TONE GENERATOR	T2L: Sampling and Modelling Technology	
MODELLING	Reactive to player articulation	
SAMPLING	XXL wave size, holophonic recording up to 15 seconds on lower piano notes	
SOUND WAVE FORMAT	24 bit linear - 48 KHz (Internal processing and DSP at 32 bit floating)	
DIGITAL ANALOG CONVERSION (DAC)	24 bit linear - 48 KHz, Dynamic Range, S/N:106dB	
MAXIMUM POLYPHONY	Unlimited with 320 Oscillator	
SOUNDS	80 + Unlimited User (depending on the internal memory free), downloadable with file extensions .DXS and .SF2	
MEMORY	Internal: 80 User: Unlimited loadable from USB Memory	
MIDI PART	3	
MIDI TOUCH SENSITIVITY	Velocity adjustment (pp, p, mf, f, ff)	
REVERB	24 Types	
EFFECTS	6 independent DSP Effects (2 x 3 Parts) using "seamless changes" technology at effect recall	
MASTER EQUALIZER	3-band Digital Equalizer	
MASTER TUNING	YES: 415,4Hz to 466,1 Hz (adjustable increments of 0,1 Hz) + 2 Preset (440 Hz, 442 Hz)	
TEMPERAMENT	9 Types	
USER TEMPERAMENT	3 User	
RHYTHM PATTERNS	X MURE APP for i-Phone and i-Pad (FREE) with multitracks audio patterns	
DISPLAY	Graphic LCD 128 x 64 dots Organic LED, high contrast type	
CONNECTORS	DC IN socket	for supplied AC adaptor
	Unbalanced Output (L/Mono, R) jacks	1/4-inch phone type x 2
	Balanced Output (L, R)	XLR type x 2
	Phones jacks	1 x Stereo 1/4-inch phone type
	USB COMPUTER (Type B port)	Digital Audio OUT on USB (24 bit, 48 Khz) Digital Audio IN on USB (24 bit, 48 Khz)
	USB MEMORY (Type A port)	To Host (MIDI), To Device (MEMORY)
	MIDI sockets	IN, THRU
	DAMPER Pedal (HOLD) socket	Progressive Damper Action Pedal with sympatetic resonance simulation (Accept on/off pedal also)
	ASSIGN Pedal socket	Assignable (default Expression)
Power Supply	12V DC 2A , supplied AC/DC adaptor	
POWER CONSUMPTION	Stand By: < 0,2 W Maximum: < 9 W "ErP" LEVEL VI for Echo efficiency on stand-by consumption	
DIMENSIONS	292 (W) x 173 (D) x 87 mm (H) 11-1/2 (W) x 6-13/16 (D) x 3-7/16 (H) inches	
WEIGHT	1.9 kg (excluding AC adaptor) 4 lbs 4 oz (excluding AC adaptor)	
SUPPLIED ACCESSORIES	Quick guide AC adaptor (DEXIBELL DYS624-120200W)	
OPTIONS (sold separately)	<ul style="list-style-type: none"> • DX CP1 continuous sustain pedal with selectable 'mode switch (Switch, continuous) • DX SP1 switch pedal with selectable mode switch (normally closed, normally open) • DX HF7 Stereo headphones 	

NOTE

In the interest of product, the specification and description are subject to change without notice.

22 インデックス

Symbols

A

AC Adaptor	12
Adding a Library	25
Audio Level (USB)	18
AUTO OFF	14

B

C

Computer	18
Connect a MIDI Keyboard	17
CONTROLS	40
Cursor	15
Cursor Operation	15
Moving the cursor	16

D

DAMPER PEDAL	40
DC IN jack	12
Demo	14
Display	15

E

Effect	
Reverb Effect	23
EFFECTS	39
Export	
Exporting the Internal Memory Set	34
Exporting a Sound Set	27

F

Factory Reset	31
Factory Sounds	31
File name	
Assigning the Name You Specify	16

G

GLOBAL	43
--------------	----

H

I

Import	
Importing Memory Set	35
Importing a Sound Set	27

J

K

L

M

MAIN SETTING	39
Master Equalizer	31
MASTER TUNE	40
Memories	
Exporting the Internal Memory Set in the USB Memory	34
Importing Memory Set from the USB Memory into Internal Memory.	35
Recalling your settings from an USB Memory	34
Recalling your settings from Internal Memory	32
Renaming a Memory	34
Saving Your Settings in the Internal Memory	32
Working with the Memories	32
MEMORY	42
MENU	
MENU Options (Advanced Section)	38
MIDI	42
MIDI Channels	17
MIDI Reception	21
MIDI Settings	21

N

O

P

Parameters	
GLOBAL	43
Part Settings	21
PEDAL	
DAMPER PEDAL	40
PEDAL ASSIGN	40
Pitch of the Parts	21
Power On/Off	13
Turning the Power On/Off	13

Q

R

Remove and Add Sound Libraries ..	24
Rename	
Renaming a Memory	34
Reverb	
Reverb Effect	23
REVERB	40

S

Save	
------	--

Saving Your Settings in the Internal Memory	32
---	----

Saving Your Settings in the USB Memory	32
--	----

SETTING

SETTING Parameters Group	39
Sound Effects	23
Sound Library	24
Sounds	
Personalizing Your Sounds	28
Sound Setup	27
Specifications	49

T

T2L EDITOR	39
T2L-Modelling	28
TEMPERAMENT	41
Tones	
Selecting Tones	19,21
Transpose	
Transposing the pitch of the keyboard or/and song	31
TRANPOSE	39
Troubleshooting	48
TUNE	
MASTER TUNE	40
TUNING	40

U

USB Audio Feature	18
USB Audio Level	18
USB Memory	
Connecting an USB Memory	12,13
Exporting the Internal Memory Set in the USB Memory	34
Importing Memory Set from the USB Memory into Internal Memory.	35
Recalling your settings from an USB Memory	34
Saving Your Settings in the USB Memory	32
USB MIDI	17

V

VOLUME knob	8
-------------------	---

W

X

X MURE	37
--------------	----

Y

Z

DEXIBELL

DEXIBELL
is a brand of

PROEL SPA
(Worldwide Headquarters)
Via alla Ruenia, 37/43
64027 Sant'Omero (TE) - ITALY
Tel. +39 0861 81241
Fax +39 0861 887865
P.I. 00778590679
N.Reg.AEE IT 0802000002762

info@dexibell.com
www.dexibell.com

Dexibell製品国内輸入総代理店：
株式会社銀座十字屋ディリгент事業部
〒104-0045 東京都中央区築地4-4-15-10F
03-6264-7818 (カスタマーサポート)
<https://dirigent.jp/>

Dirigent